



日本証券業協会
Japan Securities Dealers Association

(参考資料 1)

証券業界におけるサステナブルファイナンスへの取組み

2021年2月18日
日本証券業協会

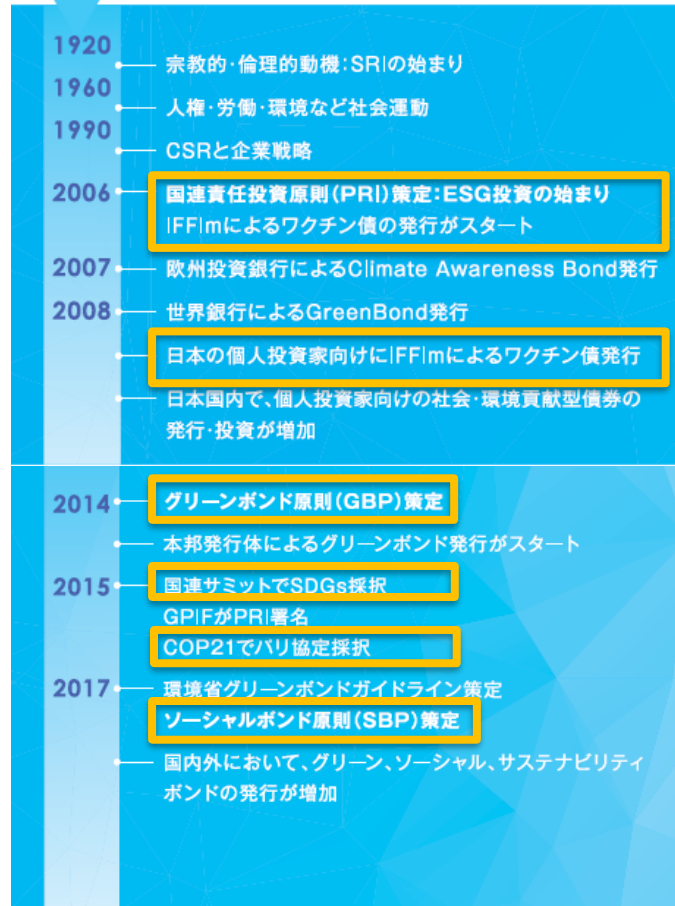


| | |
|---|-----|
| 1. <u>サステナブルファイナンス (SDGs債) の始まり</u> | P 2 |
| 2. <u>日証協のサステナブルファイナンス (SDGs債) への取組み (2017年～)</u> | |
| ● 日本証券業協会「SDGs宣言」(2018年3月) | P12 |
| ● 証券業界におけるSDGsの推進に関する懇談会 (2017年9月) | P14 |
| ● 日本証券業協会 SDGs懇談会、地球環境分科会、SDGs金融商品WG 委員名簿・・ | P16 |
| ● アミーナ・モハメド国連副事務総長との面談 (2018年2月) | P18 |
| ● 「貧困、飢餓をなくし地球環境を守る分科会」第一次報告書 (2019年3月) | P22 |
| ● 統一呼称「SDGs債」提言..... | P23 |
| ● 「SDGsに貢献する金融商品に関するガイドブック」作成..... | P25 |
| ● 国内公募「SDGs債」発行状況に関する統計の作成・公表..... | P26 |
| ● SDGsと資本市場に関するシンポジウムの開催..... | P27 |
| 3. <u>グリーンボンドにフォーカスした取組み</u> | |
| ● ICMA共催コンファレンス開催 (2017年～2019年) | P29 |
| ● 環境省 への連携協力 (ESG金融懇談会、ESGハイレベル・パネル) | P44 |
| 4. <u>ソーシャルボンドにフォーカスした取組み</u> | |
| ● ICMA「ソーシャルボンド原則2020」日本語版作成 (2020年11月) | P48 |
| ● ICMA「ソーシャルボンド国内外発行事例集」日本語訳情報共有 (2020年12月) .. | P49 |
| ● ICMA共催コンファレンス開催 (2020年11月) | P50 |
| ● ICMA共催「ソーシャル／サステナビリティ・リンク・ボンド研修コース」開催..... | P52 |
| ● 東大×日証協「SDGsシンポジウム」開催 (2020年12月) | P54 |
| ● 東大×日証協「大学債／ソーシャルボンド・カンファレンス」開催 (2021年1月) | P56 |
| 5. <u>国際的な連携・協力</u> | |
| ● ASF (アジア証券人フォーラム) における取組み..... | P59 |
| ● ロンドン「FT ESGコンファレンス」開催..... | P65 |
| 6. <u>金融・証券教育支援事業における取組み</u> | P68 |

1. サステナブルファイナンス（SDGs債）の始まり

2006年、ESG投資の始まりとしてワクチン債発行がスタート

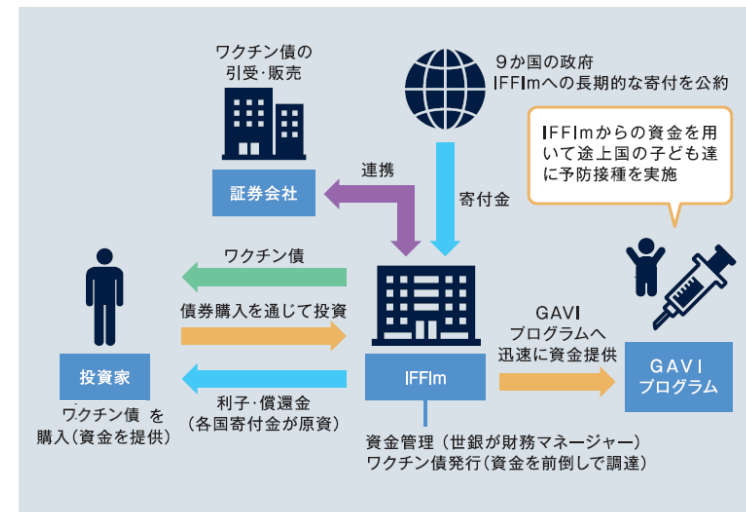
環境・社会を考慮する投資の変遷



国際金融ファシリティ（IFFIm）ワクチン債

予防接種のための国際金融ファシリティ（IFFIm）により発行される債券で、政府による公約に基づく長期間に渡る寄付金を元手に行う予防接種プログラムの資金調達を計画的に行うために発行され、調達された資金は全て途上国における子供たちの予防接種に充てられます。

ワクチンの普及が遅れている原因の一つに資金不足が挙げられており、その解決策として政府から将来長期に渡って提供される寄付金を担保に「今」使える大きな資金を調達するワクチン債が生まれました。



ICMA原則概要

- ◆ ICMAのグリーンボンド原則（GBP）、ソーシャルボンド原則（SBP）では、グリーンボンド、ソーシャルボンドの定義を定め、それら債券が満たすべき4つの核となる要素を示している。
- ◆ サステナビリティボンドガイドラインにおいては、サステナビリティボンドの定義を、その資金がグリーンプロジェクトとソーシャルプロジェクトの双方に充当されるものとしたうえで、グリーンボンド、ソーシャルボンドと同様に4つの核を満たすべきとしている。

グリーンボンドの定義

グリーンボンドとは、調達資金の全てが、新規又は既存の適格なグリーンプロジェクトの一部又は全部の初期投資又はリファイナンスのみに充当され、かつ、GBPの4つの核となる要素に適合している様々な種類の債券である。

ソーシャルボンドの定義

ソーシャルボンドとは、調達資金の全てが、新規又は既存の適格なソーシャルプロジェクトの一部又は全部の初期投資又はリファイナンスのみに充当され、かつ、SBPの4つの核となる要素に適合している様々な種類の債券である。

◆ 4つの核となる要素（GBP、SBP共通）

1. 調達資金の用途

- 調達した資金は、環境面／社会面の便益を有するプロジェクトに充当される。発行体は法定書類等で明示する。

2. プロジェクトの評価と選定のプロセス

- 発行体は、目指す環境／社会的目標、適格プロジェクトの選定プロセス、適格性のクライテリアについて投資家に伝える。

3. 調達資金の管理

- 発行体は調達資金を適切に管理、追跡する。プロジェクトの進捗と資金充当状況を調整する。

4. レポーティング

- プロジェクトのリスト、概要、資金充当状況、期待される効果を含む最新の情報に係るレポーティングを作成・保存する。

- ◆ 上記4つの核の充足に加え、「外部評価」を行うことが望ましいとされている（コンサルタント・レビュー、検証、認証、格付）。

グリーン／ソーシャルボンド 資金使途

| 総称 | 分類 | 資金使途 (対象プロジェクト) | 例 |
|---------------------------------|----|---|---|
| SDGs債 | | | |
| グリーンボンド (GBPに該当する債券) | | | |
| | | <ul style="list-style-type: none"> 再生可能エネルギー エネルギー効率 汚染防止および管理 生物自然資源および土地利用に係る環境持続型管理 陸上および水生生物の多様性の保全 クリーン輸送 持続可能な水資源および廃水管理 気候変動への適応 高環境効率商品、環境適応商品、環境に配慮した生産技術およびプロセス 地域、国または国際的に認知された標準や認証を受けたグリーンビルディング その他 | <ul style="list-style-type: none"> グリーンボンド ウォーターボンド インフラボンド 農業ボンド |
| ソーシャルボンド (SBPに該当する債券) | | | |
| | | <ul style="list-style-type: none"> 手ごろな価格の基本的インフラ設備 (例: クリーンな飲料水、下水道、衛生設備、輸送機関、エネルギー) 必要不可欠なサービスへのアクセス (例: 健康、教育及び職業訓練、健康管理、資金調達と金融サービス) 手ごろな価格の住宅 中小企業向け資金供給及びマイクロファイナンスによる潜在的効果を通じ、社会経済的な危機に起因する失業の防止又は軽減するために設計された、プログラムと雇用創出 食糧の安全保障と持続可能な食糧システム (例: 食糧必要要件を満たす、安全で栄養価の高い十分な食品への物理的、社会的、経済的なアクセス、回復力ある農業慣行、フードロスと廃棄物の削減、小規模生産者の生産性向上) 社会経済的向上とエンパワーメント (例: 資産、サービス、リソース及び機会への公平なアクセスとコントロール。所得格差の縮小を含む、市場と社会への公平な参加と統合) | <ul style="list-style-type: none"> ウーマン (ジェンダー) ボンド ワクチン債 ウォーターボンド インフラボンド 教育、EYEボンド 農業ボンド 食糧安全保障債 |
| サステナビリティボンド (SBGに該当する債券) | | | |
| | | <ul style="list-style-type: none"> グリーンプロジェクト及びソーシャルプロジェクト双方へあてられるもの | |

各国・地域におけるグリーン、ソーシャル、サステナビリティ ボンドに関するガイドライン



各国・地域 ガイドライン

| | グリーンボンド | ソーシャルボンド | サステナビリティボンド |
|--------------|---|---|---|
| ICMA | <ul style="list-style-type: none"> グリーンボンド原則（2014⇒2018） | <ul style="list-style-type: none"> ソーシャルボンド原則（2017⇒2020） | <ul style="list-style-type: none"> サステナビリティボンドガイドライン（2017⇒2018） |
| 日本 | <ul style="list-style-type: none"> グリーンボンドガイドライン（環境省2017） | | |
| 中国 | <ul style="list-style-type: none"> グリーンボンドガイドライン（中国人民銀行、2015）※グリーン金融債向けガイドライン グリーンボンドガイドライン（国家発展改革委員会、2016）※グリーン企業債向けガイドライン グリーンボンドの評価・認証に関するガイドライン（中国人民銀行・中国証監会、2017） | | |
| ASEAN | <ul style="list-style-type: none"> ASEAN グリーンボンドスタンダード（ASEAN資本市場フォーラム*、2017） | <ul style="list-style-type: none"> ASEANソーシャルボンドスタンダード（同左、2018） | <ul style="list-style-type: none"> ASEANサステナビリティボンドスタンダード（同左、2018） |
| フィリピン | <ul style="list-style-type: none"> ASEAN グリーンボンドスタンダードに基づくグリーンボンド発行に関するガイドライン（フィリピン証券取引委員会、2018） | <ul style="list-style-type: none"> ASEAN ソーシャルボンドスタンダードに基づくソーシャルボンド発行に関するガイドライン（同左、2018） | <ul style="list-style-type: none"> ASEAN サステナビリティボンドスタンダードに基づくサステナビリティボンド発行に関するガイドライン（同左、2018） |
| インドネシア | <ul style="list-style-type: none"> Regulation of Financial Service Authority on the Issuance and Terms of Green Bonds（金融サービス庁、2017） | | |
| インド | <ul style="list-style-type: none"> グリーンボンドの発行・上場の情報開示についてのガイドライン（インド証券取引委員会、2017） | | |
| EU | <ul style="list-style-type: none"> EUグリーンボンドスタンダード（欧州委員会、2019） | <ul style="list-style-type: none"> EU ソーシャルボンド基準 | <ul style="list-style-type: none"> EUサステナビリティボンド基準 |
| ISO | <ul style="list-style-type: none"> ISO/TC207においてSC4/WG7（グリーンボンド）、SC7/WG10（気候変動ファイナンス）、WG11（グリーンファイナンス）規格開発作業中 ISO/TC322（サステナブルファイナンス）が新設。企画開発に向けた検討を開始（2019）。 | | |

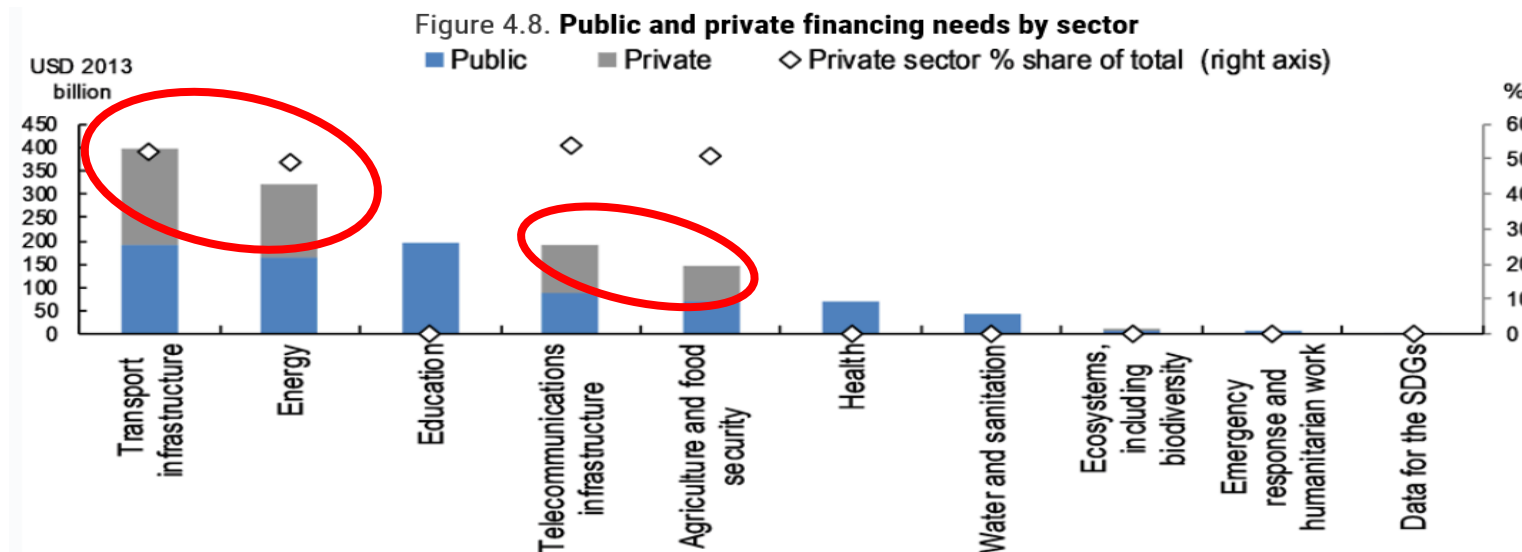
* ASEAN資本市場フォーラム：ASEAN各国の資本市場規制当局で構成される。

SDGs達成への膨大な資金不足

現下の国際社会は、貧困、飢餓、国際保健、教育といった伝統的課題から、今日的課題である気候変動や海洋、陸上資源の保全等幅広くかつ喫緊の課題に直面

(UNCTAD「World Investment Report 2014」より)

- SDGsの達成には世界全体で**年間5兆～7兆ドル**、このうち開発途上国においては年間約3.3兆～4.5兆ドルの投資が必要になる（2015～30年）。
- セクター別の資金調達ニーズとしては、「輸送インフラ」、「エネルギー」、「通信インフラ」や「農業、食料安全保障」に係る分に民間の資金のニーズがある。



資金不足に対応するためには、公的部門からの投資のみではなく、民間資金の活用が不可欠。民間からSDGs達成への投資を促進する有効な手段としては、SDGs債の活用などが挙げられる。

SDGs達成に必要な投資額と不足額

SDGs達成に必要な投資の不足額は年間1.8兆～3兆ドル

- SDGsの達成には世界全体で年間5兆～7兆ドル、このうち開発途上国においては年間約3.3兆～4.5兆ドルの投資が必要とされている（2015～30年）。一方で、**投資の不足額は年間1.8兆～3兆ドル**に上る。

発展途上国においてSDGs達成に必要なとされる投資額と不足額

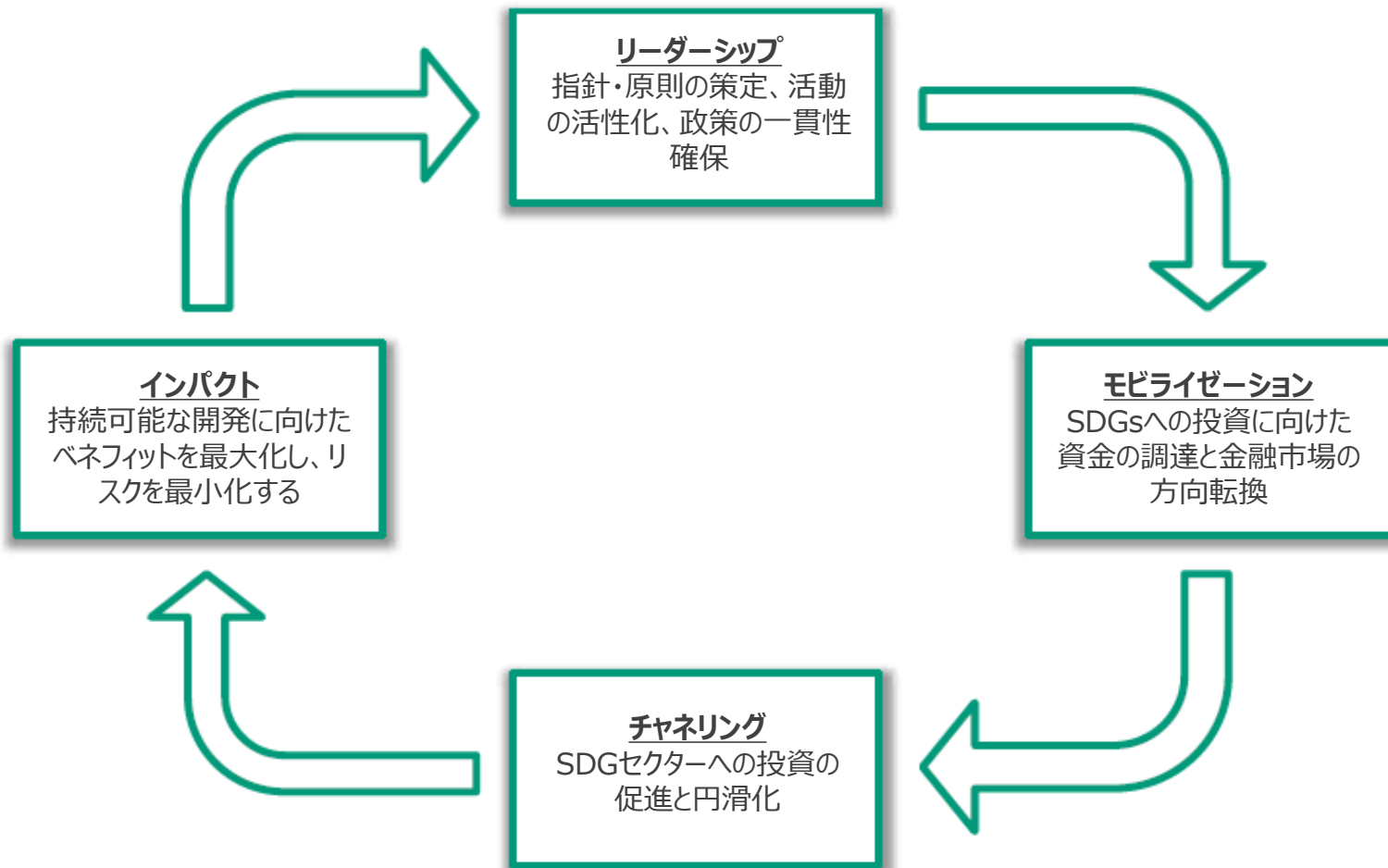
| | 現状の投資額 (10億ドル/年) | 必要な投資額 (10億ドル/年) | 投資不足額 (10億ドル/年) | 現状投資額に占める 民間資金の平均割合 | |
|-----------|---------------------|---------------------|--------------------|------------------------|---------|
| | | | | 発展途上国 | 先進国 |
| 電力 | 260 | 630～950 | 370～690 | 40～50% | 80～100% |
| 輸送 | 300 | 350～770 | 50～470 | 30～40% | 60～80% |
| 通信 | 160 | 230～400 | 70～240 | 40～80% | 60～100% |
| 水、衛生 | 150 | 410 | 260 | 0～20% | 20～80% |
| 食料安全、農業 | 220 | 480 | 260 | ～75% | ～90% |
| 気候変動の緩和 | 170 | 550～850 | 380～680 | 40% | ～90% |
| 気候変動への適応 | 20 | 80～120 | 60～100 | 0～20% | 0～20% |
| 生態系・生物多様性 | — | (70～210) | — | — | — |
| 健康 | 70 | 210 | 140 | ～20% | ～40% |
| 教育 | 80 | 330 | 250 | ～15% | 0～20% |
| 合計 | 1,430 | 3,270～4,520 | 1,840～3,090 | — | — |



資金不足に対応するためには、公的部門からの投資のみではなく、民間資金の活用が不可欠。

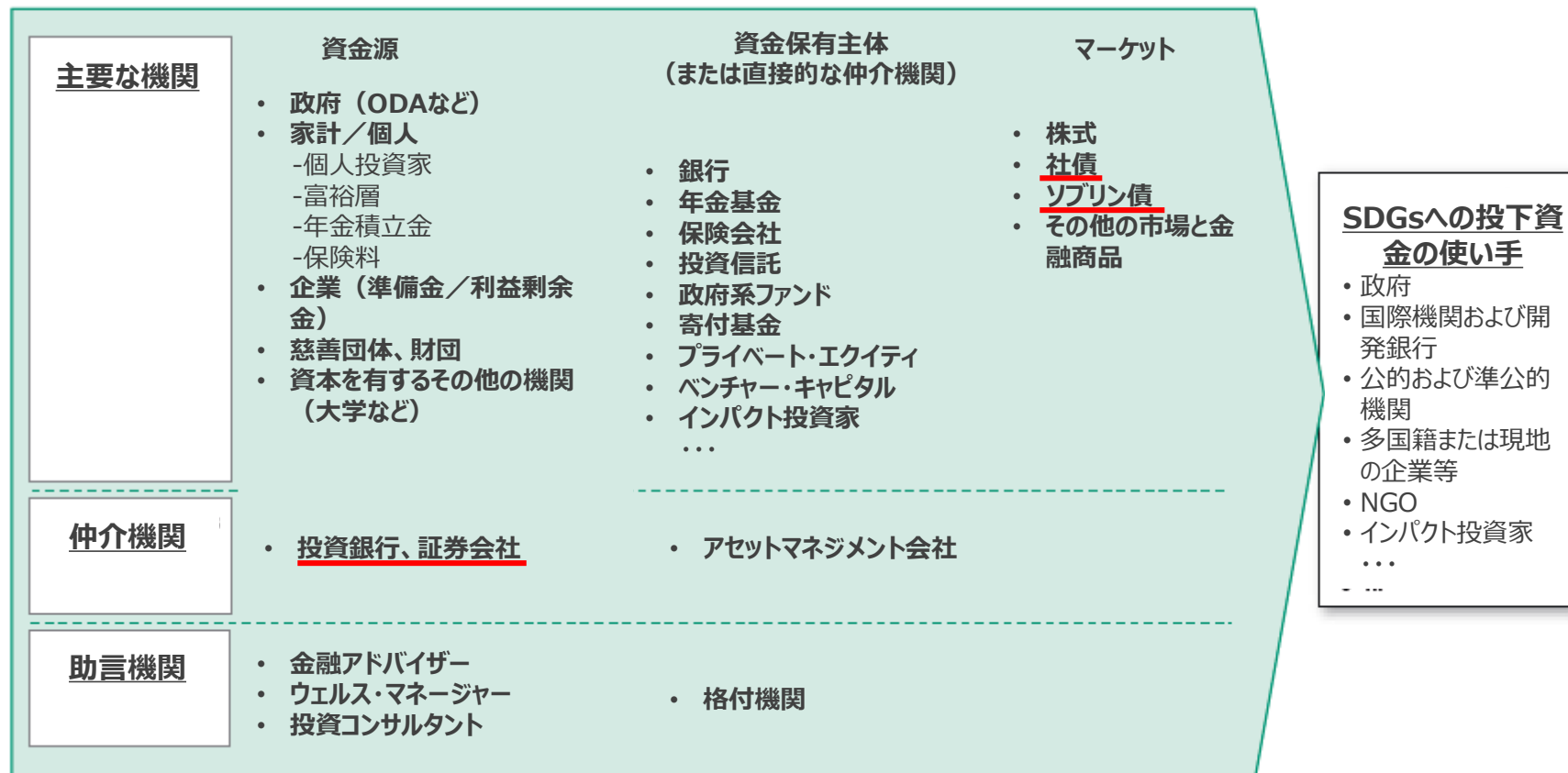
(UNCTAD「World Investment Report 2014」より日本証券業協会作成)

SDGsへの民間投資に向けた戦略的フレームワーク



(UNCTAD「World Investment Report 2014」より)

SDGsのインベストメントチェーンと主要な関係者



Source: UNCTAD.

(UNCTAD「World Investment Report 2014」より。下線は日証協)

2. 日証協のサステナブルファイナンス（SDGs債） への取組み（2017年～）

2018年 日本証券業協会による「SDGs宣言」

日本証券業協会は、国際連合が提唱する国際社会全体の目標であるSDGs（持続可能な開発目標）の達成に貢献するとともに、証券業自らも持続的な成長を目指し、次の通り宣言いたします。

1. 貧困、飢餓をなくし地球環境を守る取組み

- 証券市場が有する資金調達・供給機能等を通じて、社会課題の解決を目指します。

2. 働き方改革そして女性活躍支援を図る取組み

- ワーク・ライフ・バランスの推進等を通じて、働きがいのある職場づくりを目指します。

3. 社会的弱者への教育支援に関する取組み

- 様々な環境に置かれている子ども達への支援等を通じて、あらゆる機会を平等に与えられる社会の実現を目指します。

4. SDGsの認知度及び理解度の向上に関する取組み

- 本協会及び会員証券会社の役職員のSDGsに関する当事者意識を高めるとともに、国内外におけるSDGsに対する認知度及び理解度の向上を目指します。

2018年3月22日

2018年 日本証券業協会による「SDGs宣言」 (英語版)

The Japan Securities Dealers Association(JSDA) resolves to work on the following initiatives. Doing this will contribute to achieving the Sustainable Development Goals (SDGs) set by the United Nations as a global agenda, seeking as well the sustainable growth of the securities industry.

1. Initiatives to end poverty/starvation and protect the global environment

-We aim to resolve social challenges through fund raising and provision functions of the securities market.

2. Initiatives to promote decent working conditions and women's participation in society

-We aim to create a working environment with high job satisfaction by improving the work-life balance.

3. Initiatives to support education for the socially vulnerable

- We aim to realize a society that ensures equal opportunity for everyone by supporting children living under trying circumstances.

4. Initiatives to improve the awareness and understanding of SDGs

-We aim to improve the awareness and understanding of SDGs in Japan and overseas, while raising the sense of ownership over SDGs among executives and employees of the JSDA and our members.

March 22, 2018

「証券業界におけるSDGsの推進に関する懇談会」 の設置



2017年9月、本協会会長の諮問機関として同懇談会を設置

証券業界におけるSDGsの推進に関する懇談会
構成：有識者および会員証券会社の代表者等／座長：日本証券業協会会長

本協会に「株主優待SDGs基金」を
設置し、国連機関等への拠出

大学との連携

貧困、飢餓をなくし地球環境を守る 分科会

証券業を通じ社会的課題解決に貢献するため、**インパクト・インベストメント関連の金融商品の組成・販売の促進に向けた具体的方策等**について検討・対応する。

<具体的な施策例>

統一呼称「SDGs債」の提言・普及
推進

「SDGs債」の統計情報の定期的な
作成・公表

SDGsに貢献する金融商品の
ガイドブック作成

ICMAと連携した国際イベント等の
開催

働き方改革そして女性活躍支援分 科会

証券業界における働き方改革や女
性活躍の推進を図るため、業界横
断的な方策について検討・対応する。

業界横断的な働き方に関する事例
集の作成

代表者や管理職等、属性別に焦点
をあてたセミナーの開催

業界横断的なテレワークに関する情
報共有等

社会的弱者への教育支援に関する 分科会

経済的に厳しい状況でも**子供たちが
将来に希望を持って成長できるよう、
証券業界として支援できる方策**につ
いて検討・対応する。

証券業界とNPO法人等を結ぶ仕組
み「こどもサポート証券ネット」の構築・
運営

内閣府等が主導する「こどもの未来
古本募金」に業界全体で参画

【参考】証券業界におけるSDGsの推進に関する懇談会

座長

鈴木 茂晴（日本証券業協会 会長）

会員委員

安藤 敏行（安藤証券 代表取締役社長）

石田 建昭（東海東京フィナンシャルHD 代表取締役社長
最高経営責任者）

内田 和人（エルガン・スタイル-MUFG証券 取締役会長）

菊地 稔（丸三証券 代表取締役社長）

北尾 吉孝（SBI証券 代表取締役会長）

楠 雄治（楽天証券 代表取締役社長）

小々高 利昭（しん証券さかもと 代表取締役社長）

小林 正浩（明和證券 代表取締役社長）

近藤 雄一郎（SMB C日興証券 代表取締役社長）

斎藤 聖美（ジェイ・ボンド東短証券 代表取締役社長）

新芝 宏之（岡三証券グループ 代表取締役社長）

杉崎 重光（ゴールドマン・サックス証券 副会長）

公益委員

白河 桃子（昭和女子大学 客員教授、相模女子大学 特任教授）

清明 祐子（マネックス証券 代表取締役社長）

田代 桂子（大和証券 代表取締役副社長）

巽 大介（光世証券 代表取締役社長）

鳥海 智絵（野村證券 専務）

長岡 孝（三菱UFJ証券ホールディングス 代表取締役会長）

中村 善二（UBS証券 代表取締役社長）

橋本 幸子（エルガン・スタイル-MUFG証券 取締役）

林 礼子（BoFA証券 取締役副社長）

日比野 隆司（大和証券 取締役会長）

三宅 潔（みずほ証券 取締役会長）

森田 英子（BNPパリバ証券 取締役）

森田 敏夫（野村證券 代表取締役社長）

山口 隆弘（山和証券 代表取締役社長）

以上 27 名（五十音順・敬称略）

【参考】貧困、飢餓をなくし地球環境を守る分科会メンバー

主査

荻野 明彦（大和証券 専務取締役）

委員

安藤 健実（バークレイズ証券 投資銀行部門長）

石川 尚志（いちよし証券 取締役）

稲井田 洋右（野村証券 常務）

植木 博士（ゴールドマン・サックス証券 政府関連担当部長）

上杉 達郎（BNPパリバ証券 資本市場本部長 兼
シンジケート部長）

魚津 亨（水戸証券 代表取締役副社長）

牛島 真丞（S M B C日興 証券経営企画・
お客さま本位推進担当 執行役員）

小川 裕之（S B I証券 常務取締役）

沖津 嘉昭（岩井コスモ証券 代表取締役会長）

河口 真理子（立教大学 特任教授）

朔 慶典（U B S証券 上席執行役員）

諏訪 一（三菱UFJモルガン・スタンレー証券 執行役員
投資銀行本部副本部長）

泊 健一（徳島合同証券 代表取締役社長）

林 礼子（B o f A日本証券 取締役副社長）

藤野 敦（岡三証券 常務執行役員）

萬代 克樹（マネックス証券 取締役副社長）

宮澤 伸光（東海東京証券 常務執行役員
経営企画本部長）

山崎 栄一（みずほ証券 執行役員プロダクト本部長）

和里田 聰（松井証券 代表取締役社長）

以上 20 名（五十音順・敬称略）

【参考】SDGsに貢献する金融商品に関するワーキング・グループ

主査

清水 一滴（大和証券 デット・キャピタルマーケット部副部長）

委員

相原 和之（野村証券 デット・キャピタル・マーケット部ESG債担当部長）

伊井 幸恵（みずほ証券 コーポレート・ファイナンス部サステナブル・ファイナンス室室長）

五味 貴弘（岡三証券 金融商品部長）

櫻本 剛弘（ゴールドマン・サックス証券 投資銀行部門資本市場本部資本市場部長マネージング・ディレクター）

三瓶 匡尚（S M B C日興証券 グローバル・キャピタル・マーケット本部本部長補佐S D G s ファイナンス担当）

鈴木 慎太郎（東海東京証券 キャピタル・マーケット部部長）

酢谷 祐輔（BofA日本証券 資本市場部門債券資本市場部ディレクター）

田村 良介（三菱U F Jモルガン・スタンレー証券 投資銀行本部デット・キャピタル・マーケット部エグゼクティブ・ディレクター）

以 上 9 名（五十音順・敬称略）

国際イベントを通じたSDGs推進に向けた取組みとして アミーナ・モハメド国連副事務総長と面談

日時：2018年2月7日（水）午前10時50分～11時20分

場所：国連副事務総長オフィス 応接室

先方：アミーナ・モハメド副事務総長、鈴木戦略企画・モニタリング部門 ディレクター、小野上級経済担当官、ルイーザ・カースト経済社会局アソシエイト・オフィサー

当方：鈴木会長、森本副会長、川村大和総研副理事長、田代大和証券グループ本社専務執行役、石倉執行役、成松審議役、西村SDGs推進室長（肩書等は当時）

面談概要

- 鈴木会長より日本証券サミット開催の趣旨や開催に当たっての国連の協力への謝辞を述べた後、西村SDGs推進室長より、証券界におけるSDGs推進への取組みの進捗状況について報告を行った。

- 本協会の取組みに関するモハメド副事務総長の主な発言は以下のとおり。

① 「貧困、飢餓をなくし地球環境を守る分科会」

グリーンボンドの発行促進は、気候変動対策の重要なツールである。現在、各国の民間セクターにおいてグリーンボンドが発行されているが、個々のプロジェクトに対するファイナンスの規模が小さいと感じている。UNDPが各国政府のサポートの連携を図っているが、各国政府と民間が連携して、より規模の大きなファイナンスが可能となることを期待している。ソーシャルボンドについては、世銀が2017年3月に起債したSDGsボンドが非常に良い事例であろう。

② 「働き方改革そして女性活躍支援分科会」

非常に重要なテーマであり、企業の投資や政策の在り方を変えることにより、女性に限らず将来を担う次世代にインセンティブを与えて欲しい。

国際イベントを通じたSDGs推進に向けた取組みとして アミーナ・モハメド国連副事務総長と面談

アミーナ・モハメド国連副事務総長との面談（続き）

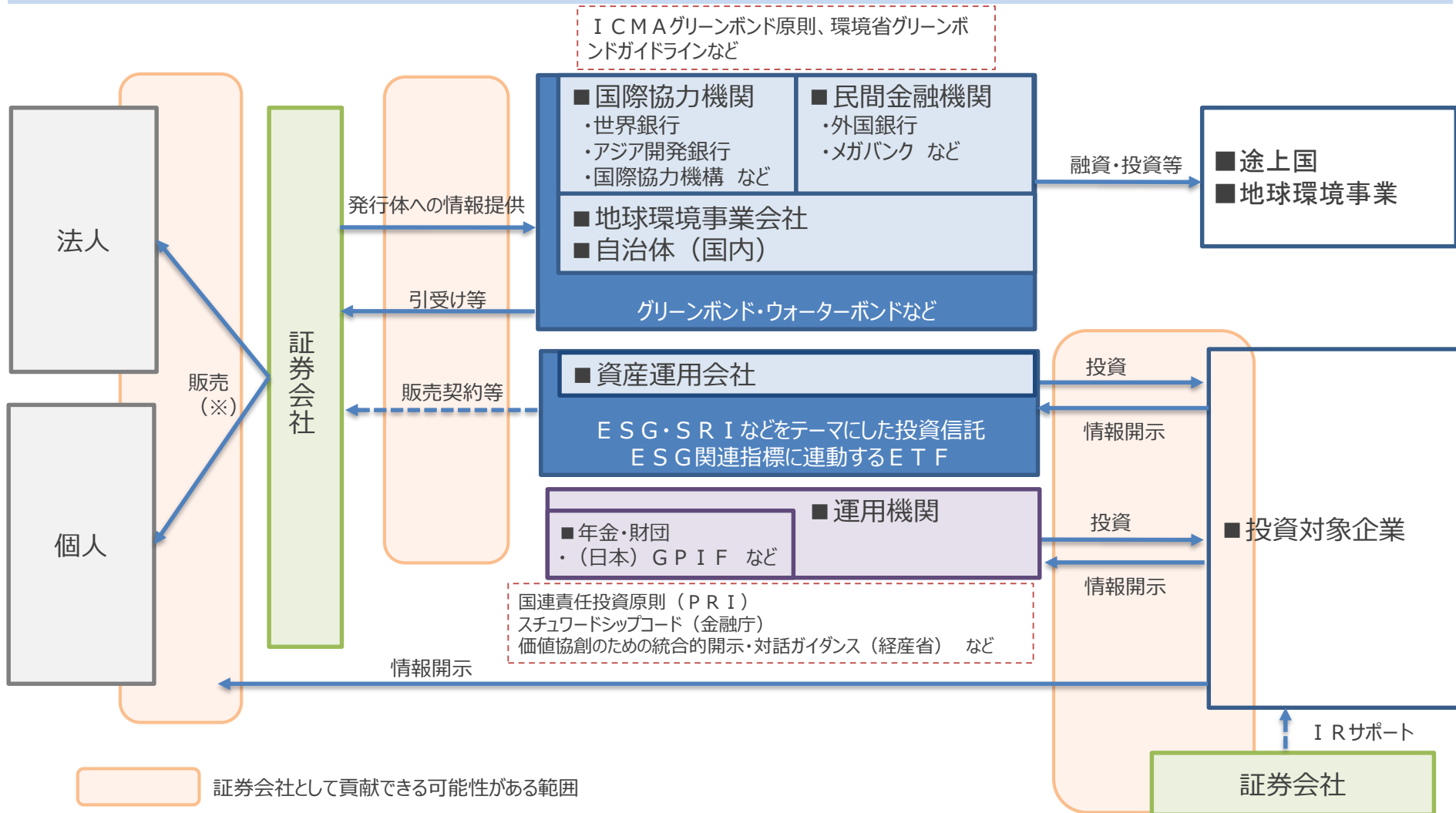
面談概要

- ③ 「社会的弱者への教育支援に関する分科会」
子供の貧困問題は①のテーマとも関連するものであり、アフリカや東南アジアでは、子供の栄養不足が最も問題となっており、それらの国々ではまずは栄養プログラムを実施している。ただ、貧困からの脱却には教育も非常に重要であり、教育をサポートする取組みを評価する。
- ④ 今後もファイナンスに関しては、政府や民間が連携して取り組むべき余地は沢山ある。ファイナンスの規模が大きくなり投資が促進されることで、民間企業のSDGsの取組みがより一層進むだろう。



（出所：国際連合ウェブサイト）

社会的課題解決に向けた証券会社の取組み



(※) 委託売買、募集・売出しの取扱いを含む。

【検討対象】

証券業界において対応可能、特に引受・販売業務に関連して主体的に取り組む余地が大きいものとして、有価証券（特に債券）を中心に検討を進めることとした。

| | 伝統的 | レスポンシブル | サステナブル | テーマ | インパクト | フィランソロピー |
|-------|-------------------|--|---|--|-------------------------------------|---------------------|
| Focus | 高い財務リターン | | | | | |
| | ESGリスクの低減 | | | | | |
| | ESG機会の追求 | | | | | |
| | 高インパクトのソリューション | | | | | |
| | ESG要因の考慮は限定的または無し | 資産保全のためにESGリスクを軽減する | 資産価値を高めるためESG要素を積極的に採用する | 環境・社会的課題への取組みで、市場平均以上の財務リターンを生み出す | 環境・社会的課題への取組みで、財務リターンと一定のトレードオフが生じる | 財務リターンを生まな社会課題に取り組む |
| 株式 | | <ul style="list-style-type: none"> ・インテグレーション(ESGリスク) ・ネガティブスクリーニング/排除 | <ul style="list-style-type: none"> ・インテグレーション(付加価値) ・ポジティブスクリーニング/ベスト・イン・クラス ・議決権行使/エンゲージメント | | | |
| 債券 | | <ul style="list-style-type: none"> ・ネガティブスクリーニング/排除 | <ul style="list-style-type: none"> ・ポジティブスクリーニング/ベスト・イン・クラス | <div style="border: 2px solid red; padding: 5px;"> ESG債≒SRI債≒社会貢献債≒テーマ債（への投資） （グリーンボンド、ソーシャルボンド、サステナビリティボンド） </div> | | |
| 投資信託 | | | ESGファンド≒SRIファンド≒社会貢献ファンド≒テーマ型ファンド（への投資） | | | |
| その他 | | | | クラウドファンディング | ソーシャルインパクトボンド | |

SDGs債

（Eurosif公表資料の分類（Spectrum of Capital：Focus部分）をもとに日証協にて作成）

「貧困、飢餓をなくし地球環境を守る分科会」 第一次報告書

2019年3月、懇談会下部同分科会第一次報告書を取りまとめた。概要は以下の通り

分科会の目的

- インパクト・インベストメント、ESG投資など、証券会社の本業である資本市場を活用した施策
⇒特に、グリーンボンドやソーシャルボンドをはじめとするSDGsに貢献する金融商品の拡大に向けて検討
- ※SDGs達成には、世界全体で年間5兆～7兆ドル、途上国で同3.3兆～4.5兆ドルが必要と試算（UNCTAD調べ）

SDGsに貢献する金融商品の現状

- 投資家は、SDGs関連事業へ資金が充当される金融商品への投資を通じて、SDGsへの貢献が可能。
- グリーン、ソーシャルボンドなどのSDGsに貢献する債券は、近年、発行数・発行額が増加傾向にある。
- そのほか、環境や社会などのテーマに沿って投資対象を選定する投資信託の販売等を通じて、証券会社は環境・社会的課題に関心を持つ投資家へ対応。
- ⇒しかしながら、環境・社会的課題の解決にはより多くの資金が必要であるほか、我が国の経済規模等からすると、グリーンボンド等を含むサステナブルファイナンスは海外に比較して小規模にとどまる。

SDGsに貢献する金融市場拡大に向けた課題に関する意見・提言等（債券を中心とした議論）

1. 統一呼称について

- ◆ SDGsに貢献する債券について、証券業界としての統一呼称として「SDGs債」を用いる。
- ① 呼称統一の対象⇒「債券」
 - 資金使途が明確又は限定可能であり、SDGsへ貢献するものを特定しやすい
- ② 呼称における「SDGs」の使用
 - 証券会社役員や顧客におけるSDGsの認知度向上に資する
 - SDGs関心層（投資未経験層を含む）による投資促進を期待
 - ひいては投資家層、発行体層の拡大につなげる

2. ガイドブックの作成（役職員、一般向けの普及・啓発施策）

- ◆ SDGsに貢献する金融商品の普及、推進には、まずは証券会社の役職員自身が、それら金融商品の概要、意義について理解を深める必要がある。
- ◆ 証券会社の役職員や投資家の認知度向上を目的として、「SDGsに貢献する金融商品に関するガイドブック」を作成

3. 経済的メリット、インセンティブの付与

- ◆ SDGsに貢献する債券は、発行体、投資家双方の経済的メリットがない点が課題。
- ◆ これまでの分科会では、「税制措置」、「リスク・ウェイト」の観点から議論。今後も、継続的、長期的に検討を行い、積極的に情報発信を行うこととされた。

4. 評価体系の確立（ESG評価／指数）

- ◆ ESG評価、指数組成は、ESG関連市場の拡大、投資家流入に資する。
- ◆ 証券会社・業界として、ESG格付や評価等の定義に関する正確な理解の促進やESG指数に係る投資家への情報発信などに取組むことが重要。

5. 投資家行動の在り方

- ◆ 機関投資家がESG投資に関する方針を明確化することは企業の取組みを促す。
- ◆ 証券会社には個人投資家とのチャネルを活用した普及・啓発が期待される。

6. 発行会社による情報開示

- ◆ SDGsに貢献する金融商品への投資促進には企業によるESG情報開示が重要。
- ◆ 2019年2月、日証協としてTCFD提言への賛同を表明。



今後の展開

- 上記を踏まえた役職員、一般向けの普及・啓発を実施しつつ、債券以外の金融商品や、これまでに議論できなかった課題への対応について継続的に検討。

証券業界は、SDGsに貢献する金融商品の統一呼称「SDGs債」を提言



SDGs債とは、「調達資金がSDGsに貢献する事業に充当される債券」

具体的には、次のような債券を含む

- ✓ **SDGsに貢献する環境・社会へのポジティブなインパクトを有し、一般的にスタンダードとして認められている原則に沿った債券**

(例えば、国際資本市場協会 (ICMA) ※によるグリーンボンド原則、ソーシャルボンド原則、サステナビリティボンド・ガイドラインなどの原則を指す)
(サステナビリティボンドとは、調達資金が環境 (グリーン) 及び社会 (ソーシャル) 双方に資するプロジェクトに充当される債券)

- ✓ **事業全体がSDGsに貢献すると考えられる機関が発行し、インパクト (改善効果) に関する情報開示が適切になされている債券**

(例えば、アジア開発銀行、国際復興開発銀行、欧州復興開発銀行、米州開発銀行、国際金融公社などの機関を指す)

※ICMA (International Capital Market Association) とは、スイスに本部を置く国際団体。世界60カ国の発行体、発行市場・流通市場取引仲介業者、アセット・マネージャー、投資家、資本市場インフラ運営者等500以上の会員を有する。ICMAの任務は、国際債券市場のレジリエンスと良好な機能を促進すること。

※日証協は、ICMAによるソーシャルボンド原則等の策定や改訂、ソーシャルボンド原則日本語版の作成にあたり、連携している。

統一呼称「SDGs債」の提言

グリーン／ソーシャルプロジェクトとSDGsの整合性



統一呼称の対象であるグリーンボンド、ソーシャルボンドの資金使途となるプロジェクトカテゴリーではほぼ全てのSDGsを包含

| グリーンボンドプロジェクトカテゴリー | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 13 | 14 | 15 | 16 | 17 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|----|----|----|----|----|----|----|----|
| 1. 再生可能エネルギー | | | ● | | | | ● | ● | ● | | ● | ● | | | | | |
| 2. エネルギー効率 | | | | | | | ● | ● | ● | | | | | | | | |
| 3. 汚染防止及び抑制 | | | ● | | | | | | | | ● | ● | | | | | |
| 4. 生物自然資源及び土地利用に係る環境持続型管理 | | ● | | | | | | | | | ● | ● | | ● | ● | | |
| 5. 陸上及び水生生物の多様性の保全 | | | | | | ● | | | | | | | | ● | ● | | |
| 6. グリーン輸送 | | | | | | | | | | | ● | | | | | | |
| 7. 持続可能な水資源及び廃水管理 | | | | | | ● | | | | | ● | ● | | | | | |
| 8. 気候変動への適応 | ● | ● | | | | | | | | | | | ● | | | | |
| 9. 高環境効率商品、環境適応商品、環境に配慮した生産技術及びプロセス | | | | | | | | ● | | | ● | ● | | | | | |
| 10. 地域、国または国際的に認知された標準や認証を受けたグリーンビルディング | | | | | | | | | | | ● | | | | | | |
| ソーシャルボンドプロジェクトカテゴリー | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1. 手ごろな価格の基本的インフラ設備 | | ● | | | | | | | | | ● | | | | | | |
| 2. 必要不可欠なサービスへのアクセス | ● | ● | ● | ● | | | | ● | ● | ● | | | | | | | |
| 3. 手ごろな価格の住宅 | ● | | ● | | | ● | ● | | ● | | ● | | | | | | |
| 4. 中小企業向け資金供給及び雇用創出 | | | | | | | | ● | ● | | | | | | | | |
| 5. 食糧の安全保障と持続可能な食糧システム | | ● | | | | | | | | | | ● | | | | | |
| 6. 社会経済的向上とエンパワーメント | ● | ● | | ● | ● | | | ● | | ● | ● | | | ● | ● | | |

「SDGsに貢献する金融商品に関するガイドブック」の作成



2019年4月、SDGs債等の普及に向けてSDGs及びSDGs債等を説明したガイドブックを作成

目的

1. 証券会社の**役職員**におけるSDGsに貢献する金融商品（投資）の認知度・理解度の向上
2. **顧客（投資家、企業等）**への普及を通じたSDGsに貢献する金融商品市場の拡大
3. 一般社会への浸透により、**投資未経験のSDGs関心層**の投資行動を促進する

内容

- ◆ SDGsとは
- ◆ SDGsと証券業界：SDGsと「投資」の関係、証券業界の機能
- ◆ SDGsに貢献する金融商品の概要（歴史等）
- ◆ 「SDGs債」について
 - －プロジェクト例
 - －ケース紹介
 - －発行の推移



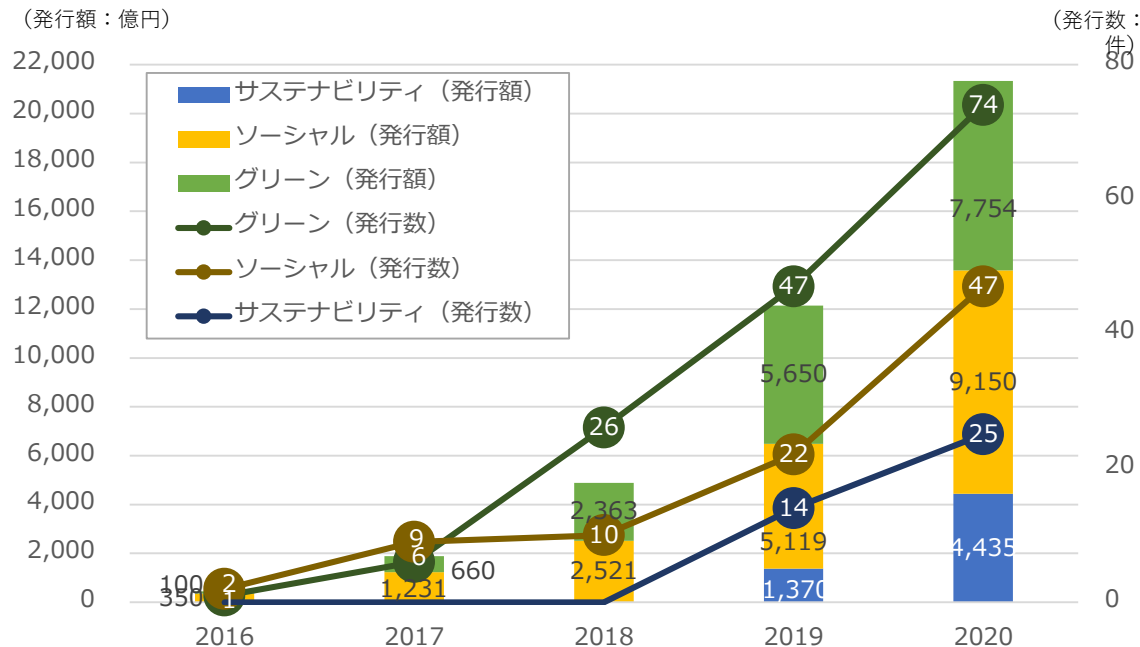
国内公募SDGs債の発行状況に関する統計の作成・公表

2019年11月より、国内で公募されたSDGs債（グリーン、ソーシャル、サステナビリティボンド）の発行状況について四半期ごとに統計を作成・公表を開始

【背景】

- ✓ グリーン、ソーシャルボンドに代表されるSDGs債の発行数増加
- ✓ 我が国におけるSDGs債の市場規模の推移を注視する必要性
- ✓ 中立的機関（日証協等）による統計情報公表のニーズの高まり
- ✓ 日証協「貧困、飢餓をなくし地球環境を守る分科会」においても、グリーン、ソーシャルボンド等の統計情報の重要性が指摘された



日本国内で公募されたSDGs債の発行額・発行件数の推移



SDGsと資本市場に関するシンポジウムの開催



2019年7月、主に資本市場関係者を対象として、SDGs推進に向けた資本市場の役割やサステナブルファイナンスの動向等の理解促進を目的としたシンポジウムを開催

| | | | |
|---|--------------------------------------|--|--|
| 1) 開催期日 | 2019年(令和元年)7月9日(火) 午後1時20分～4時45分 | | |
| 2) 会場 | 日経カンファレンスルーム(東京都千代田区大手町1-3-7 日経ビル6階) | | |
| 3) テーマ | 資本市場におけるSDGs推進への取組みと課題 | | |
| 4) 参加者 | 約180名(うち、証券会社役員95名) | | |
| 5) プログラム | 6) 当日の様様 | | |
| <p>13:20～13:25 主催者挨拶(日本証券業協会 会長 鈴木茂晴)</p> <p>13:25～14:25</p> <p>基調講演1「SDGsと企業の役割」 蟹江憲史 慶應義塾大学大学院教授</p> <p>基調講演2「SDGs推進に向けた資本市場の役割」 水口剛 高崎経済大学経済学部教授</p> <p>14:25～14:35</p> <p>日本証券業協会「貧困、飢餓をなくし地球環境を守る分科会」報告書概要について 分科会主査 荻野明彦 大和証券専務取締役</p> <p>14:35～15:10</p> <p>証券会社におけるSDGs推進に向けた取組み状況の報告 水戸証券(魚津亨 代表取締役副社長) 大和証券(荻野明彦 専務取締役) メリルリンチ日本証券(林礼子 取締役副社長)</p> <p>15:30～16:40</p> <p>パネルディスカッション「資本市場におけるSDGs推進に向けた課題と展望」 河口真理子 大和総研研究主幹 相原 和之 野村證券 デット・キャピタル・マーケット部 ESG債担当部長 飯塚 優子 住友林業 サステナビリティ推進室長 池田 賢志 金融庁 総合政策局総務課国際室長兼F・Sサステナブルファイナンス・ウィザ 小野塚恵美 ゴールドマン・サックスアセットマネジメント 運用本部サステナビリティ推進室長 寺沢 徹 アセットマネジメントOne 運用本部責任投資部長</p> <p>16:40～16:45 主催者挨拶(日本証券経済研究所 理事長 増井喜一郎)</p> | |   | |

3. グリーンボンドにフォーカスした取組み (ICMAとの連携／環境省への協力)

国際資本市場協会（ICMA）※との共催により 毎年グリーンボンドやソーシャルボンドに関するコンファレンスを開催

【2017年】



“グリーンボンド及び社会貢献債市場の発展-アジアの展望”

日 時：2017年11月2日（木）

場 所：虎ノ門ヒルズ森タワー5Fホール

参加者：アジアの発行会社、銀行、証券会社、（機関）投資家、その他の関係機関、
報道機関等 約400名

【2018年】



“グリーンボンド及びソーシャルボンド市場の発展-アジアの展望”

日 時：2018年12月11日（火）

場 所：ホテル ニューオータニ 鶴の間

参加者：日本を中心とするアジアの発行体、銀行、証券会社、（機関）投資家、
在日大使館職員、その他の関係機関、報道機関等 約550名（昨年比約40%増）

【2019年】



“日本とアジアのグリーン、ソーシャル及びサステナビリティボンド市場の発展”

日 時：2019年10月9日（水）

場 所：ホテル ニューオータニ 鶴の間

参加者：日本を中心とするアジアの発行体、銀行、証券会社、（機関）投資家、
在日大使館職員、その他の関係機関、報道機関等 約700名（前年比約30%増）

※ICMAは欧州を中心に世界約60カ国500の金融機関が加盟する国際団体。本拠地はチューリヒ及びロンドン。スイス及び英国当局から自主規制機関と認められている。[本協会との間で2008年1月、相互協力に関する覚書\(MoU\)を締結](#)し、2008年、2013年、2015年及び2017年に日本証券サミットを共催

日本証券業協会では、グリーン、ソーシャル、サステナビリティボンドの市場等の動向について、市場関係者の理会を深め、日本市場の課題等を探る機会として、2017～2019年（計3回）、グリーンボンドコンファレンスを開催

環境省より大臣等のゲスト登壇



奥山 祐矢 環境経済課長



城内 実 副大臣



小泉 進次郎 環境大臣

(参考) ICMA共催コンファレンス 参加者内訳



コンファレンス カテゴリ別 参加者内訳

◆ 人数

| | 2017年 | 2018年 | 2019年 | 2020年 |
|----------------------------|--------------|-------------------------------------|-------------------------------------|--------------------------------------|
| セルサイド | 124 | 207 | 192 | 174 |
| バイサイド | 55 | 66 | 92 | 88 |
| 発行体（事業会社、地方公共団体、 金融機関等） | 58 | 83 | 155 | 181 |
| 業界団体 | 45 | 23 | 29 | 13 |
| 中央行政 | 12 | 15 | 16 | 52 |
| シンクタンク | 10 | 18 | 20 | 13 |
| 格付機関・外部レビュアー | 14 | 20 | 20 | 18 |
| 情報ベンダー | 7 | 4 | 14 | 7 |
| メディア | 11 | 16 | 33 | 22 |
| 駐日外国公館 | 0 | 16 | 9 | 18 |
| その他 | 74 | 83 | 110 | 140 |
| 合計 | 410※1 | 551※1 (日本人483) (外国人68) | 690※1 (日本人617) (外国人73) | 726※2 (日本人420) (外国人316) |

(※1 実会場参加者ベース)

(※2 実会場・オンライン登録者ベース (実会場参加者・オンラインアクセス数合計は約500名))

ICMA共催コンファレンス 2019年グリーンボンドコンファレンス



(参考) 2019年グリーンボンドコンファレンス概要

| | |
|------|---|
| 日程 | 2019年10月9日（水）9時30分～17時15分 |
| タイトル | 「日本とアジアのグリーン、ソーシャル及びサステナビリティボンド市場の発展」 |
| 趣旨 | グリーン、ソーシャル、サステナビリティボンド市場等の動向について日本市場関係者の理解を深め、日本市場の課題等を探る機会とする |
| 会場 | ホテルニューオータニ 鶴の間 |
| 主催 | 国際資本市場協会（ICMA : International Capital Market Association）※ 日本証券業協会 |
| 参加者 | 日本を中心とするアジアの発行体、銀行、証券会社、（機関）投資家、在日大使館職員、その他の関係機関、報道機関等 約700名（2018年比約30%増） |



会場



展示エリア（ブレイク会場）



小泉大臣、鈴木会長、シェックCE

※ICMAは欧州を中心に世界約60カ国500の金融機関が加盟する国際団体。本拠地はチューリヒ及びロンドン。スイス及び英国当局から自主規制機関と認められている。本協会との間で2008年1月、相互協力に関する覚書(MoU)を締結し、2008年、2013年、2015年及び2017年に日本証券サミットを共催

2019年プログラム

08:45 受付、ウェルカム・コーヒー・サービス

09:30 歓迎・開会の挨拶 – 日本証券業協会 会長 鈴木 茂晴

09:35 来賓挨拶 – 環境大臣 小泉 進次郎 氏

09:45 パネル 1: 規制イノベーション – EUとアジアの比較

EUでは、サステナブルファイナンスの意欲的なアクションプランが実施されている。一方、中国は規制されたサステナブルファイナンス市場を持っている。日本とその他のアジアの国々では、グリーンボンド原則やソーシャルボンド原則に代表される、国際的なベストプラクティスを主に採用し、適合している。これらの異なるアプローチは矛盾しているのか、基本的には全て合致しているのか。

モデレーター：国際資本市場協会（ICMA）マネージング・ディレクター GBP/SBP事務局、EU TEGメンバー ニコラス・ファフ

パネリスト：野村証券 ESG債担当部長 相原 和之 氏

欧州委員会 銀行規制監督ユニットヘッド ナタリー・ベルガー 氏

金融庁 チーフ・サステナブルファイナンス・オフィサー 池田 賢志 氏

三菱UFJモルガン・スタンレー証券 デット・キャピタル・マーケット部長 マネージング・ディレクター 池崎 陽大 氏

香港金融発展局 主管（政策研究） 董一岳 氏

10:35 コーヒー & ネットワーキング ブレイク

11:05 基調講演 – BPCEグループ グループCOO兼ファイナンシャルオペレーションヘッド オリヴィエ・イリソン 氏

11:15 パネル 2: 資本市場におけるSDGsの役割

膨大な額の資金が持続的な発展（地球を守りながら繁栄を促進する）には必要である。大規模アセットオーナーはますますインパクトを伴う投資機会を求め、今やSDGsがその方向性の確認点となっている。SDGsの推進や資金調達におけるグリーン、ソーシャル、サステナビリティボンドの役割とは何か。

モデレーター：HSBCデット・キャピタルマーケット グローバル共同ヘッド ICMA理事会副議長

ジャンマルク・マーシエイ 氏

パネリスト：SMBC日興証券SDGsファイナンス室長 チヴァース 陽子 氏

日本政策投資銀行 財務部長 松井 泰宏 氏

鉄道建設・運輸施設整備支援機構 理事 西川 浩 氏

PIMCOエグゼクティブ・ヴァイスプレジデント ケティッシュ・ポタリンガム 氏

国際金融公社 シニア・ファイナンシャル・オフィサー 安井 真紀 氏

2019年プログラム

- 12:00** 昼食
- 13:00** 基調講演 – 年金積立金管理運用独立行政法人 理事（管理運用業務担当）兼CIO 水野 弘道 氏
- 13:10** 基調講演 – 住友林業 取締役常務執行役員 川田 辰巳 氏
- 13:20** パネル 3: 企業、金融機関のリーダーによる視点
– アジアの企業はグリーン、ソーシャル、サステナビリティボンドを主要な調達手段とする準備は出来ているか
グリーン、ソーシャル、サステナビリティボンドは、アジアにおいて飛躍的に成長しているが、障壁はまだ残っている。潜在的な発行体が市場参入する上での阻害は何か、これをどのように緩和できるか。
モデレーター：メリルリンチ日本証券 取締役副社長、日本証券業協会SDGs懇談会委員、国際資本市場協会（ICMA）理事会理事 林 礼子 氏
パネリスト：クレディ・アグリコルCIB サステナブルバンキング アジア環太平洋ヘッド ドミニーク・デュバル 氏
ANAホールディングス グループ経理・財務室 財務企画・IR部 財務チームリーダー三宅 一史 氏
大和証券 テット・キャピタルマーケット部 オリジネーション課 副部長 清水 一滴 氏
日本生命 取締役常務執行役員 戸田 和秀 氏
- 14:15** リーダーシップ・ダイアローグ
– 持続可能性の実現 グリーン、ソーシャル、サステナビリティボンド市場の真の貢献は何か。
国際資本市場協会（ICMA）チーフ・エグゼクティブ マーティン・シエック
欧州投資銀行 ファイナンス局長 ベルトラン・ドゥ・マジエール 氏
- 14:45** パネル 4: インパクトとESG – パフォーマンスと市場関連性の計測
高まる投資家への報告要件（TCFD）や投資家のインパクトへの要求は、投資家の求める情報をどのように変えることになるか。発行体はそれを果たすことができるか。
モデレーター：JPモルガングリーンボンド統括責任者 GBP/SBP副議長 マリリン・セシ 氏
パネリスト：アムンディ 債券運用部長 有江 慎一郎 氏
世界銀行 財務局 駐日代表 有馬 良行 氏
みずほ証券 コーポレート・ファイナンス部 サステナブル・ファイナンス室室長 伊井 幸恵 氏
環境省 大臣官房環境経済課 課長補佐 菅生 直美 氏
- 15:30** 基調講演 – 金融庁 長官 遠藤 俊英 氏
- 15:40** コーヒーブレイク
- 16:00** 基調講演 – 三菱UFJフィナンシャル・グループ CFO 徳成 旨亮 氏

2019年プログラム

- 16:10** パネル 5 :新たなサステナビリティのタクソミーと分類
提案中のEUタクソミーは、長期的に市場にポジティブなインパクトを与えることが期待できるか、グリーンとグリーンウォッシングの懸念は残るか。市場はどのように独自の分類を開発していくか、これらはどのように比較されるか。アジアでも類似のアプローチが続く見込みか。
モデレーター：国連責任投資原則（UNPRI）チーフ・レスポンシブルインベストメント・オフィサー
EUTEGタクソミーサブグループ ネーサン・ファビアン 氏
パネリスト：格付投資情報センター 格付企画調査室長兼ESG推進部長 石渡 明 氏
気候債券イニシアティブ（CBI）CEO 兼共同創業者 ショーン・キドニー氏
野村証券 インデックス業務室インデックス監理グループ ヴァイス・プレジデント 宮野 俊英 氏
サステナリティクス サステナブル・ファイナンス・ソリューションズ マネージャートリッシャ・タネージャー 氏
第一生命 エグゼクティブ・サステナブルファイナンス・スペシャリスト 銭谷 美幸 氏
- 17:10** 閉会挨拶 – 国際資本市場協会（ICMA）チーフ・エグゼクティブ マーティン・シエック
- 17:15** 閉会

2018年プログラム

- | | |
|-------|--|
| 08:45 | 受付、ウェルカム・コーヒー・サービス |
| 09:30 | 歓迎・開会の挨拶 ・ 日本証券業協会 会長 鈴木 茂晴 |
| 09:35 | 歓迎基調講演：グローバルスタンダードの収れんとアジアの基軸 ・ 国際資本市場協会（ICMA） チーフ・エグゼクティブ マーティン・シエック |
| 09:40 | 来賓挨拶 ・ 環境省 環境副大臣 城内 実 氏 |
| 09:45 | パネル1：グリーンボンド原則（GBP）/ソーシャルボンド原則（SPB）－発展を促す基準とそのメインストリーム化 プレゼンテーション・モデレーター： ・ 国際資本市場協会（ICMA） ディレクター ピーター・ムンロ パネリスト： ・ アムンディ・アセットマネジメント 債券運用部門ヘッド エグゼクティブ・コミティー委員 エリック・ブラール 氏 ・ JPモルガン マネージング・ディレクター マリリン・セシ 氏 ・ HSBC マネージング・ディレクター アジア太平洋地域ローンマーケット協会（APLMA） グリーンローンコミティー ジョナサン・ドリュウ 氏 ・ BNPパリバ サステナブル・キャピタル・マーケット ヘッド ステファニー・スファキアノス 氏 ・ 中倫法律事務所 パートナー ウェイ・コン 氏 |

2018年プログラム

| | |
|-------|--|
| 10:35 | コーヒー & ネットワーキング ブレイク |
| 11:10 | パネル2：日本市場－成長のための仕組み：機会と挑戦 プレゼンテーション・モデレーター： ・ 世界銀行 財務局 駐日代表 有馬 良行 氏 パネリスト： ・ みずほ証券 プロダクツ本部 シニアプライマリーアナリスト 香月 康伸 氏 ・ 日本学生支援機構 財務部 次長 小林 敏幸 氏 ・ 商船三井 財務部財務企画チーム チームリーダー 北代 充司 氏 ・ 三菱UFJ銀行 ソリューションプロダクツ部 プロジェクト環境室室長 山崎 周 氏 |
| 12:00 | 基調講演 ・ 経済協力開発機構（OECD） 事務次長 河野 正道 氏 |
| 12:10 | 昼食 |
| 13:20 | 基調講演 ・ 国際金融公社（IFC） 金融機関グループ CIO ジャンマリー・マッセ 氏 |

2018年プログラム

| | |
|-------|--|
| 13:30 | <p>パネル3：グリーンボンド・ソーシャルボンドの価値の特定 プレゼンテーション・モデレーター： ・ ドイツ復興金融公庫（KfW） シニア・ヴァイス・プレジデント/財務担当 フランク・チコスキー 氏</p> <p>パネリスト： ・ ING アジア サステナブル・ファイナンス・ヘッド ヘリー・チョー 氏 ・ アーンスト・アンド・ヤング（EY） アジア太平洋圏 金融サービス アシュアランス・パートナー ジェフリー・チョイ 氏 ・ 欧州投資銀行 IR部門ヘッド アイリーン・サンチェス 氏 ・ 格付投資情報センター 格付企画調査室長兼ESG推進部長 石渡 明 氏 ・ 野村アセットマネジメント 運用部債券グループ シニア・ポートフォリオマネージャー ジェイソン・モーティマー 氏</p> |
| 14:20 | <p>基調講演 ・ 三井住友フィナンシャルグループ 取締役 執行役副社長（代表執行役） グループCFO兼グループCSO 太田 純 氏</p> |
| 14:30 | <p>パネル4：SDGsに貢献するグリーンボンド/ソーシャルボンド及びローン プレゼンテーション・モデレーター： ・ 国際資本市場協会（ICMA） アジア事務所代表 ムスターク・カパシ</p> <p>パネリスト： ・ 国際金融公社（IFC） アシスタント・トレジャラー コウロ・カネ・ジャヌス 氏 ・ クレディ・アグリコル・コーポレート・アンド・インベストメント・バンク MTNs& プライベート・プレースメント グローバル ヘッド兼クレディ・アジア ヘッド マネージング・ディレクター ベンジャミン・ランバーグ 氏 ・ Vigeo Eiris 中華圏&東南アジア市場 ヘッド ジュリエッティ・マクレシー 氏 ・ SMBC日興証券 資本市場本部本部長補佐兼SDGsファイナンス室長 三瓶 匡尚 氏 ・ 大和証券 グローバル・インベストメント・バンキング副担当 執行役員 代田 英展 氏</p> |

2018年プログラム

| | |
|-------|---|
| 15:20 | コーヒープレイク |
| 15:50 | 基調講演 ・ 日本取引所グループ 取締役兼代表執行役グループCEO 清田 瞭 氏 |
| 16:00 | パネル5 : リーダーシップ・ディベート モデレーター : ・ メリルリンチ日本証券 副会長 日本証券業協会 SDGs懇談会 委員 林 礼子 氏 パネリスト : ・ ドイツ復興金融公庫 (KfW) シニア・ヴァイス・プレジデント/財務担当 フランク・チコウスキー 氏 ・ 金融庁 総合政策局長 佐々木 清隆 氏 ・ 第一生命 取締役常務執行役員 菊田 徹也 氏 ・ 野村證券 執行役員 インベストメント・バンキング担当 後藤 匡洋 氏 ・ 香港金融管理局 (外部) エグゼクティブ・ディレクター ヴィンセント・リー 氏 |
| 17:00 | 閉会挨拶 ・ 国際資本市場協会 (ICMA) チーフ・エグゼクティブ マーティン・シェック |

2017年プログラム

| | |
|-------|--|
| 08:45 | 受付、ウェルカム・コーヒー・サービス |
| 09:30 | 歓迎・開会の挨拶 日本証券業協会 会長 鈴木 茂晴 |
| 09:35 | 歓迎基調講演：アジア－GBP（グリーンボンド原則）にとっての戦略的地域 国際資本市場協会（ICMA） チーフ・エグゼクティブ マーティン・シエック |
| 09:40 | パネル・ディスカッション：GBP－最近の発展と2017年～2018年の展望 モデレーター：国際資本市場協会（ICMA） 市場慣行及び規制政策担当ディレクター ピーター・ムンロ パネリスト： メリルリンチ日本証券 取締役 副会長 林 礼子 氏 みずほ証券 プロダクツ本部 シニアプライマリーアナリスト 香月 康伸 氏 BNPパリバ サステナブル・キャピタル・マーケット ヘッド ステファニー・スファキアノス 氏 三菱東京UFJ銀行 ストラクチャードファイナンス部 プロジェクト環境室 室長 山崎 周 氏 Mirova シニア・ポートフォリオ・マネージャー クリス・ウィグレイ 氏 |

2017年プログラム

| | |
|-------|--|
| 10:50 | 基調講演 東京都知事 小池 百合子 氏 |
| 11:15 | コーヒー&ネットワーキング ブレイク |
| 11:45 | 基調講演 環境省 大臣官房 環境経済化 課長 奥山 祐矢 氏 |
| 12:00 | パネル・ディスカッション：日本市場－実績と展望 モデレーター：世界銀行 財務局 駐日代表 有馬 良行 氏 パネリスト： 日本政策投資銀行 財務部長 加藤 裕幸 氏 日本生命保険 取締役 執行役員 大関 洋 氏 モルガン・スタンレーMUFG証券 資本市場統括本部 債券資本市場部長 マネージング ディレクター 荻原 正典 氏 大和証券 デッド・キャピタルマーケット部 海外オリジネーション課 兼 オリジネーション課 次長 徳田 健 氏 |
| 13:00 | 昼食 |

2017年プログラム

| | |
|-------|---|
| 14:00 | 基調講演：中国のグリーンボンド市場 上海グリーンファイナンス委員会 事務局長 コン・ウェイ 氏 |
| 14:10 | <p>パネル・ディスカッション：グリーンボンド市場の将来のダイナミズム</p> <p>モデレーター： 気候債券イニシアティブ CEO兼共同創業者 ショーン・キドニー 氏</p> <p>パネリスト：</p> <p>クレディ・アグリコル・CIB クライメイト&グリーンボンド・リサーチ ヘッド エルワン・クリヘレット 氏</p> <p>大和総研 調査本部 主席研究員 / JSIF 代表理事 河口 真理子 氏</p> <p>国際金融公社 (IFC) フィナンシャル・インスティテューション・グループ チーフ・インベストメント・オフィサー ジャンマリー・マッセ 氏</p> <p>欧州投資銀行 (EIB) ユーロ・ファンディング 副ヘッド アルド・ロマーニ 氏</p> <p>中国グリーンファイナンス委員会 副事務局長 ワン・ヤオ 氏</p> |
| 15:00 | 基調講演：低炭素経済への移行へ向けたグリーンファイナンス・投資の拡大 経済協力開発機構 (OECD) 事務次長 河野 正道 氏 |
| 15:15 | 基調講演：アジア新興国における市場の創設 アジア開発銀行 持続的開発・気候変動局 局次長 兼 CCO ネシム・ジェイ・アフマド 氏 |
| 15:30 | <p>パネル・ディスカッション：社会貢献債及びサステナビリティ債市場の潮流</p> <p>モデレーター： 国際金融公社 (IFC) インベスター・リレーションズ・ヘッド エッセー・デニス・オダロ 氏</p> <p>パネリスト：</p> <p>ノルデア サステナブル・ファイナンス ヘッド サーシャ・ベスリック 氏</p> <p>国際金融ファシリティ (IFFIm) 理事長 ルネ・カーセンティ 氏</p> <p>PRI 事務局 ジャパンヘッド グローバルネットワーク&アウトリーチ 森澤 充世 氏</p> <p>国際協力機構 (JICA) 財務部 市場資金課 課長 田中 賢子 氏</p> <p>野村證券 デット・キャピタル・マーケット部 ESG債担当部長 シニアオフィサー 相原 和之 氏</p> |

2017年プログラム

| | |
|-------|--|
| 16:20 | <p>パネル・ディスカッション：外部評価－アジアにおける現行実務及び市場の見通し モデレーター：国際資本市場協会（ICMA） アジア事務所代表 ムスターク・カパシ パネリスト： 日本総合研究所 理事 創発戦略センター/ESGリサーチセンター 足達 英一郎 氏 ムーディーズ アジア大洋州コーポレート・パブリック・プロジェクト&インフラストラク チャー・ファイナンス マネージング・ディレクター ブライアン・ケーヒル 氏 サステナリティクス 機関投資家関係担当取締役 ジェームズ・ホリラック 氏 新日本有限監査法人 気候変動・サステナビリティサービス ヘザー・マクリシュ 氏 気候債券イニシアティブ CEO兼共同創業者 ショーン・キドニー 氏</p> |
| 17:10 | <p>閉会基調講演 マレーシア証券委員会 コーポレートファイナンス&インベストメンツ マネージング・ ディレクター / ASEAN資本市場フォーラム グリーンファイナンス・ワーキング グループ 共同議長 ユージーン・ウォン 氏</p> |
| 17:25 | <p>閉会挨拶 国際資本市場協会（ICMA） チーフ・エグゼクティブ マーティン・シエック</p> |
| 17:30 | <p>ネットワーキング・レセプション</p> |

環境省 ESG 金融懇談会 委員として鈴木会長が就任 第1回、第7回開催時に参考資料（証券業界のSDGs推進の取組み）提供

環境省 ESG金融懇談会

趣旨

年金資産や預金といった国民の資金を、環境課題と経済・社会的課題の同時解決に向けた取組へと導くため、金融市場の主要なプレーヤーが一堂に会し、それぞれが果たすべき役割について認識を深めるとともに、金融市場の主要なプレーヤーや有識者等からの意見を聴取しつつ、それぞれが果たすべき役割について自由闊達に議論する場として設置

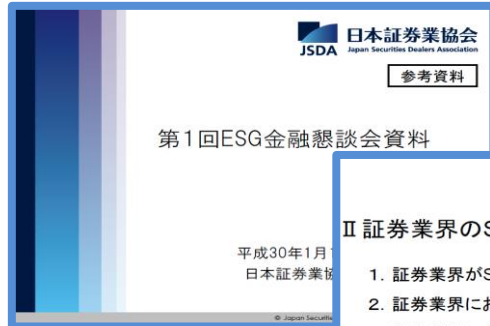
検討事項

- (1)環境課題と経済・社会的課題の同時解決に向けた、
環境金融の意義や課題
- (2)国及び金融市場関係者等の取り組むべき方向性

ESG金融懇談会 開催状況

| | | |
|-----|------------|------|
| 第1回 | 2018年1月10日 | 資料提供 |
| 第2回 | 2018年2月9日 | |
| 第3回 | 2018年3月23日 | |
| 第4回 | 2018年4月20日 | |
| 第5回 | 2018年5月30日 | |
| 第6回 | 2018年6月15日 | |
| 第7回 | 2018年6月29日 | 資料提供 |

第1回開催時資料提供



日本証券業協会
JSDA Japan Securities Dealers Association

参考資料

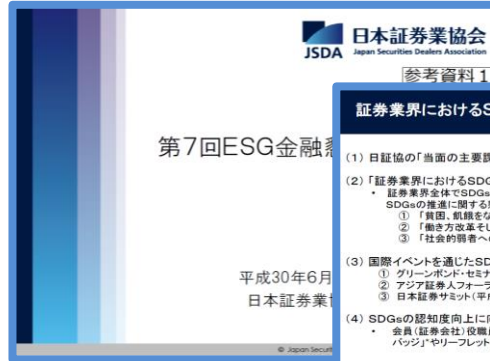
第1回ESG金融懇談会資料

平成30年1月
日本証券業協会

II 証券業界のSDGs推進の取組み（平成29年7月～）

1. 証券業界がSDGsに取り組む意義・狙い
2. 証券業界におけるSDGs推進に向けた取組み
3. 証券業界におけるSDGsの推進に関する懇談会等
4. グリーンボンドセミナーの模様
5. アジア証券人フォーラム (ASF) 年次総会の模様
6. 日本証券サミットの開催について

第7回開催時資料提供



日本証券業協会
JSDA Japan Securities Dealers Association

参考資料1

第7回ESG金融懇談会資料

平成30年6月
日本証券業協会

証券業界におけるSDGs推進に向けた取組み(まとめ)

- (1) 日証協の「当面の主要課題」として証券業界としてSDGsへ取り組むことを決定（平成29年7月）
- (2) 「証券業界におけるSDGsの推進に関する懇談会」等における検討
 - ・証券業界全体でSDGsの推進に取り組むため、本協会長の諮問機関として「証券業界におけるSDGsの推進に関する懇談会」、また下部に具体的検討を行う3つの分科会を設置（平成29年9月19日）
 - ① 「貧困、飢餓をなくし地球環境を守る分科会」
 - ② 「働き方改革そして女性活躍支援分科会」
 - ③ 「社会的弱者への教育支援に関する分科会」
- (3) 国際イベントを通じたSDGs推進に向けた取組み
 - ① グリーンボンドセミナー（平成29年11月2日 於 東京）
 - ② アジア証券人フォーラム (ASF) 年次総会（平成29年11月26日～28日 於 東京）
 - ③ 日本証券サミット（平成30年2月7日 於 米国ニューヨーク）
- (4) SDGsの認知度向上に向けた取組み
 - ・ 会員（証券会社）役員一人ひとりが、SDGsを理解し、自分事化して捉えるよう、「SDGs パッジ」やリーフレットを配付（平成29年9月以降）
 - * 「SDGs パッジ」は、国連連合が作成したアイコン（17の目標それぞれを17色で表したアイコン）をパッジにしたもの。
- (5) 「SDGs宣言」の公表
 - ・ 本協会のSDGs推進に関する明確なコミットメントを国内外に表明するため、「SDGs宣言」を公表（平成30年3月22日）

日証協 SDGs懇談会 地球環境分科会による意見提出

「貧困、飢餓をなくし地球環境を守る分科会」第一次報告書

「証券業界におけるSDGsの推進に関する懇談会」「貧困、飢餓をなくし地球環境を守る分科会」
では、委員からのSDGsに貢献する投資の促進に向けた投資家行動に関する意見や
証券会社として果たすべき役割等を取りまとめ、

環境省に設置された「ESG金融懇談会」へ参考資料として提出した。

同懇談会では、2018年7月、「ESG 金融懇談会 提言 ～ ESG 金融大国を目指して～」
を公表している※。



① ESG 要素（特に“E”）を考慮した金融商品の拡大
～（略）～

機関投資家は、21 世紀の受託者責任の考え方の浸透とともに、**利回り等の条件が同一又は類似であればESG 関連銘柄へ投資するなど、ESG 投資に関する方針を明確化することが望まれる。**

環境や社会問題を意識した投資を志向しているといわれるミレニアル世代を個人長期投資家として育てるべきとの指摘もある。個人投資家に対してもESG/SDGs を意識した質の高い金融商品や投資教育の機会が提供されることが期待される。

（『ESG 金融懇談会 提言 ～ ESG 金融大国を目指して～』＜具体的提言＞ 3. 直接金融市場における ESG 投資の加速化（2）環境・社会の持続可能性にインパクトを与えるために」より抜粋）

環境省 ESG金融ハイレベル・パネル 委員として鈴木会長が就任 第1回、第2回開催時に参考資料（証券業界のSDGs推進の取組み）提供

環境省 ESG金融ハイレベル・パネル

趣旨

ESG 金融には長期の視点が欠かせないことから、ESG 金融に係る全てのステークホルダーがしっかりと意識を持ち取り組むことが重要である。ESG 金融大国の実現に向けて、提言を踏まえ、金融・投資分野の各業界トップと国が連携し、ESG 金融に関する意識と取組を高めていくための議論を行い、行動する場として設置

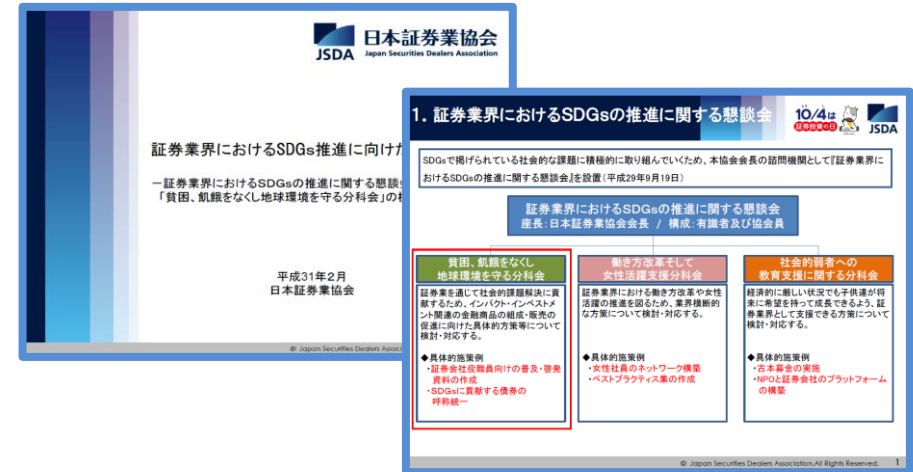
運営

- (1) 各業界及び国における、提言に基づく取組や新たな取組の状況のフォローアップ
- (2) 活動内容について、国内外に広く発信

ESG金融ハイレベル・パネル開催状況

- 第1回 2019年2月28日 資料提供
- 第2回 2020年3月10日 資料提供
- 第3回 2020年10月8日

第1回開催時資料提供



第2回開催時資料提供



4. ソーシャルボンドにフォーカスした取組み (ICMAとの連携 / 東京大学とのコラボ)

国際資本市場協会（ICMA） ソーシャルボンド原則2020日本語版の作成



2020年11月、ICMA（国際資本市場協会）ソーシャルボンド原則2020日本語版を作成
ICMAウェブページに掲載（本協会ウェブページにリンクを掲載）

～ ICMAウェブページ画面より抜粋 ～


Translations of the Social Bond Principles

Please note that the following translations are related to the 2017, 2018 and the 2020 SBP editions. They are being updated with the 2020 changes progressively, therefore the edition that each translation currently refers to is indicated below.

11月第1週
ICMAHPに2020年版日本語訳をアップ

| | | | | | | |
|--|---|--|---|--|--|--|
|  Bahasa Malay Bahasa Melayu Baku 2018 edition |  Bulgarian Български 2017 edition |  Chinese 中文 2018 edition |  Danish dansk 2018 edition |  Dutch (Netherlands) Nederlands 2018 edition |  Finnish suomi 2018 edition |  French français 2018 edition |
|  Georgian ქართული 2018 edition |  German Deutsch 2018 edition |  Hausa (Nigeria) hawsa 2018 edition |  Hindi (India) हिन्दी 2018 edition |  Italian italiano 2018 edition |  Japanese 日本語 2020 edition |  Norwegian norsk 2018 edition |
|  Polish polski 2018 edition |  Romanian limba română 2017 edition |  Russian Русский язык 2020 edition |  Spanish español 2018 edition |  Swedish svenska 2018 edition |  Turkish Türkçe 2018 edition | |

「ソーシャルボンド原則 2020」 日本語訳



ソーシャルボンド原則 2020
ソーシャルボンド発行に関する自主的ガイドライン
2020年6月

はじめに

ソーシャルボンド市場は、グローバルな社会的課題に対応するプロジェクトに係る資金調達において債券市場が相対的に重要な役割を果たし、発展を遂げつつある。ソーシャルボンドは特定の社会的課題への対応を目的とし、ポジティブな社会的結果の達成を目指すプロジェクトに必要資金を調達するボンドである。ソーシャルボンド市場は、ボンドタイプを通じて環境、労働慣行や人権を促進し、ソーシャルボンド市場の発展を促進するものである。ICMAは市場参加者に利用されることを意図しており、また、特定の課題に限定されず、ソーシャルボンドプロジェクトへの資本配分を奨励するうえでも重要な役割を果たすよう設計されている。

SBPに適合した債券発行は、透明性の高い社会的責任を伴った債券発行を意味するものである。発行体がソーシャルボンドによる債券資金の使途について報告することを奨励することで、SBPは、資金がソーシャルボンドプロジェクトに充てられていることを確認するといった透明性について大きな価値を見ている。また同時に、ソーシャルボンドプロジェクトの発行者は債券に投資する価値を高めることを目指している。多様な課題の解決と考える必要がある社会的課題や結果への取組について報告するに際し、SBPは適格なソーシャルボンドプロジェクトに対して高度なカテゴリーを推奨している。

SBPはグリーンボンド原則、ソーシャルボンド原則及びサステナブルボンド・ボンド・ボンド（SBB）と統合する。このメンバー及びオブザーバー、ならびに幅広いステークホルダーコミュニティの責務による協力的な取組という本質を持つものである。取組は発行体自身による取組に限られていない。これはグローバルなソーシャルボンド市場の発展と成長を促進するために必要に応じて推奨されている。

2020年版のSBPは、ソーシャルボンドワーキンググループ（SBWG）に加え、2018年版に開かれた取組のメンバーとオブザーバーによる継続的なインプットによる見直しを要している。2020年版は、ソーシャルボンドプロジェクトから利益を得る社会的課題の克服を奨励している。また、対象となるソーシャルボンドプロジェクトの事業分野及び対象とする人々の権利について追加的な取組を要している。

Japanese language translation courtesy of the Research Institute for Environmental Finance, updated by the Japan Securities Dealers Association for the 2020 edition, and review by Bof Securities Japan Co., Ltd.

日本語訳未ページに
「日本証券業協会によりアップデートされた」と記載されている。

<https://www.icmagroup.org/assets/documents/Regulatory/Green-Bonds/Translations/2020/JapaneseSBP-2020-06-021120.pdf>

国際資本市場協会 (ICMA) ソーシャルボンド国内外発行事例集情報共有



2020年6月ICMA発行「ソーシャル／サステナビリティボンドケーススタディ」日本語翻訳資料を作成し、12月、貴庁ソーシャルボンド実務者検討会担当者に情報共有

Social and Sustainability Bond Case Studies: Examples from Frameworks applied in Capital markets
June 2020

African Development Bank Social Bond Case Study

| Issuer | Industry | Line of Proceeds | Type of Socio-economic Outcome (or Specific social issue addressed or mitigated) | Target Population (or socio-economic outcomes) | Indicators |
|---------------------------------|-----------------------|---|---|---|---|
| AFDB / African Development Bank | Financial institution | • Unleashing social impact and economic growth to poverty reduction and job creation. | • Affordable basic infrastructure (e.g. clean drinking water, sanitation, transportation) | • Living below the poverty line • Excluded and/or marginalised social and/or community groups | • Number of beneficiaries • Access to water and sanitation • Inclusion in internet mobile services • Inclusion in electricity services • Community connectivity rate |
| | | • And projects with positive social outcomes that will help achieve the impact of the African Agenda for African societies and economic growth. | • Health systems development • Construction and/or rehabilitation of hospitals and health care centers • Enhanced emergency and capacity building for health care | • Vulnerable groups, including a mix of rural, urban, and indigenous populations • People with disabilities • Marginalised ethnic groups • Uninsured • Unemployed | • Number of beneficiaries • Number of health care facilities with location capacity and equipment • Population covered with medical insurance • Number of additional health personnel recruited for 2016-19 • Increase in number of patients • Number of intensive care unit beds provided |
| | | • Projects including but not limited to: | • Soft commodity finance facilities • Special payment systems for smallholders | • Access to financing and financial services • Support to the most vulnerable household basic needs | • Number of beneficiaries • Number of jobs created • Access to financial services • Number of households benefiting from cash transfers to increase utility bills |

Source: Social Bond Working Group Members, Company Briefs



アフリカ開発銀行ソーシャルボンド ケーススタディ

参考・未定稿

| 発行体 | 業界 | 調達資金の使途 | 社会経済的効果の種類 又は 対象、軽減される特定の社会的課題 | (社会経済的効果の)対象となる人々 | 適合するSDGs (ある場合) | 指標 |
|----------|------|--|---|--|---|--|
| アフリカ開発銀行 | 金融機関 | <ul style="list-style-type: none"> 農村圏と雇用創出を主とし、社会に強いプラスのインパクトと成果をもたらすプロジェクト 農村部への電力供給計画を主とし、社会に強いプラスのインパクトと成果をもたらすプロジェクト 持続可能な輸送と労働者の福祉 COVID-19の予防と対応を主とし、社会に強いプラスのインパクトと成果をもたらすプロジェクト 医療及びヘルスケアセンターの建設及び運営 学校インフラ、福祉施設、高齢者ケアセンターの建設及び運営 | <ul style="list-style-type: none"> 多様な性別の若者がいるシニア層 (高齢者、障害者) 都市的なサービス (教育、健康とヘルスケア、教育)へのアクセス COVID-19被害者への保護及び回復力の強化 | <ul style="list-style-type: none"> 農村圏10以下で暮らしている人々 性別及び又は歳下に属している人々及び又は若年層の人々 脆弱な状態にあるグループ 障がい者 都市及び又は農村 十分な教育を受けていない人々 十分なサービスを受けていない人々 | <ul style="list-style-type: none"> 1.SDG 2.SDG 3.SDG 4.SDG 5.SDG 6.SDG 7.SDG 8.SDG 9.SDG 10.SDG 11.SDG 12.SDG 13.SDG 14.SDG 15.SDG 16.SDG 17.SDG | <ul style="list-style-type: none"> 受益者の数 水と衛生設備へのアクセス率 乳児死亡率の低下 水質改善の減少 電力への接続率 COVID-19の被害を受けずに済んだ人の割合 脆弱な状態にある人々の割合 COVID-19被害者となる人口の割合 COVID-19被害に陥らなかった追加の被害者数の割合 人権侵害の増加 集中治療室に搬送されている人々の割合 受益者の数 都市圏10以下で暮らしている人々の割合 脆弱な状態にある人々の割合 COVID-19被害を受けずに済んだ人の割合 |

フレームワークへのリンク
https://www.afdb.org/~/media/afdb/Documents/External-Documents/AFDB_Social_Bond_Framework.pdf

ANAホールディングスソーシャルボンド ケーススタディ

| 発行体 | 業界 | 調達資金の使途 | 社会経済的効果の種類 又は 対象、軽減される特定の社会的課題 | (社会経済的効果の)対象となる人々 | 適合するSDGs (ある場合) | 指標 |
|-------------|-----|--|---|---|-----------------|----|
| ANAホールディングス | 航空機 | <ul style="list-style-type: none"> ウェブサイトの整備 (新型コロナウイルスの感染予防対策) 国内航空路線・設備の改善 (1)チャーター機・チャーター機 (2)チャーター機 (3)チャーター機 (4)チャーター機 国内航空路線・設備の改善 (1)チャーター機・チャーター機 (2)チャーター機 (3)チャーター機 (4)チャーター機 | <ul style="list-style-type: none"> 必要不可欠なサービス (公共交通機関)へのアクセス 障がい者 高齢者 障がい者、LGBT | <ul style="list-style-type: none"> ユニバーサル対応の整備が完了したウェブサイトの稼働 ユニバーサル対応の整備が完了した航空路線・設備の整備 ウェブサイトを活用する障がい者の割合 (費対比) ユニバーサル対応の整備が完了した航空路線・設備の整備 ウェブサイトを活用する障がい者の割合 (費対比) | | |

出典: ソーシャルボンドワーキンググループメンバー、企業資料、セカンドパーティオピニオン

各ソーシャルボンドの資金使途がそれぞれSDGsのゴールにマッピングされており、SDGs貢献分野が容易に判別可能。

2020年は、ソーシャルボンドに焦点を当てたコンファレンスを開催

本協会では、グリーンボンド市場等の動向について日本市場関係者の理解を深め、日本市場の課題等を探る機会として、国際資本市場協会（ICMA）との共催で、グリーン／ソーシャルボンド・コンファレンスを開催した。

4回目となる本年度は、コロナウイルス感染症の世界的な拡大を踏まえ、**ソーシャルボンドに焦点を当てたコンファレンス**を
実会場での開催に加え、オンラインでも参加可能とするハイブリッド方式により開催した。

| | |
|-------------|---|
| 日程 | 2020年11月13日（金）16時00分～18時00分（日本時間） |
| タイトル | コロナ禍において重要性を増す持続可能性に貢献する債券市場の発展 – 世界及び日本の展望 「Developments in Bond Markets Contributing to Sustainability under COVID-19 – Globally and in Japan」 |
| 会場 | 太陽生命日本橋ビル 26階 及び ZOOMによるウェビナー |
| 共催 | 国際資本市場協会（ICMA）（※） |
| 参加者 | 発行体、銀行、証券会社、（機関）投資家、その他の関係機関等 約500名 実会場参加者：約70名 オンライン参加者：約430名（アクセス数ベース） |

※ICMAは欧州を中心に世界約60カ国500の金融機関が加盟する国際団体。本拠地はチューリヒ及びロンドン。スイス及び英国当局から自主規制機関と認められている。

本協会との間で2008年1月、相互協力に関する覚書（MoU）を締結し、これまでに5回、日本証券サミット（いずれもロンドンで開催）を共催した



会場



宮園理事長、
鈴木会長、森本副会長

（参考）2020年グリーン／ソーシャルボンド・コンファレンス プログラム

| | |
|-------|---|
| 16:00 | 歓迎・開会の挨拶 日本証券業協会 会長 鈴木 茂晴 |
| 16:05 | ゲストスピーチ1 年金積立金管理運用独立行政法人（G P I F） 理事長 宮園 雅敬 氏 ゲストスピーチ2 ドイツ連邦銀行 理事会メンバー サビーネ マウデラー 氏 |
| 16:25 | パネル 1: COVID-19への対応、持続可能な回復、SDGsに貢献する債券市場の状況及び見通し Market Overview of Bonds Contributing to Responses to COVID-19, Sustainable Recovery, and the SDGs モデレーター：BofA証券取締役副社長 日本証券業協会 SDGs懇談会委員 林 礼子 氏 パネリスト：欧州安定メカニズム CFO カリーン アーネブ ヤンセ 氏 国際金融公社 VP 財務担当 ジョン ガンドルフォ 氏 日本政策投資銀行 財務部長 品田 直樹 氏 アムンディ・アセットマネジメント フィクストインカム SRI プロセス ヘッド アルバン デ ファイ 氏 |
| 17:10 | パネル 2: 持続可能性に貢献する債券を促進するためのラベリング、保証、インパクト評価 In Practice: Labelling, Assurance, and Impact Assessment to Promote Bonds Contributing to Sustainability モデレーター：世界銀行 財務局 駐日代表 有馬 良行 氏 パネリスト：ICMA マネージング・ディレクター EU TEG GBP/SBP/SLBP事務局 ニコラス ファフ 氏 金融庁 総合政策局CSO 池田 賢志 氏 Moody's SVP 戦 マルティーナ マクファーソン 氏 ブラックロック・ジャパン マネージング・ディレクター リー ヒースマン 氏 |
| 17:55 | 閉会挨拶 国際資本市場協会（ICMA） チーフ・エグゼクティブ マーティン・シエック |
| 18:00 | 閉会 |

年次コンファレンスの前日、発行体を対象とした研修コースを毎年ICMAと共催

2020年グリーン／ソーシャルボンド・コンファレンスの前日には、発行体を対象としたセミナー「ソーシャル／サステナビリティ・リンク・ボンド エグゼクティブ研修コース」を開催した。

| | |
|--------------|--|
| 日程 | 2020年11月12日（木）16時30分～19時00分（日本時間） |
| タイトル | ソーシャル／サステナビリティ・リンク・ボンドエグゼクティブ研修コース 「Social and Sustainability-Linked Bonds Executive Training Course」 |
| 会場 | ZOOMによるウェビナー |
| 主催 | 国際資本市場協会（ICMA） |
| リード トレーナー | 国際資本市場協会（ICMA） 市場慣行・規制政策 ディレクター バレリー・ギョマン 氏 サステナブルファイナンス ディレクター シモーネ・ユータマーク 氏 |
| 参加者 | 発行体、証券会社、外部レビュアー、投資家 等 計53名 |

ソーシャル／サステナビリティ・リンク・ボンド エグゼクティブ研修コース プログラム

| | |
|---------------------|---|
| <p>16:30</p> | <p>歓迎の挨拶 ICMA 市場慣行・規制政策 ディレクター バレリー・ギョマン 氏 日本証券業協会 SDGs推進室長 森川 怜子</p> |
| <p>16:35</p> | <p>パート1：サステナビリティ・リンク・ボンド トレーナー： ICMA 市場慣行・規制政策 ディレクター バレリー・ギョマン 氏</p> |
| <p>17:00</p> | <p>休憩</p> |
| <p>17:10</p> | <p>パート2：ソーシャルボンド トレーナー： ICMA サステナブルファイナンス ディレクター シモーネ・ユータマーク 氏</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 市場概況 ・ ソーシャルボンド原則における4つの核 ・ 外部評価：一般的な紹介と概要 <p>ING グローバルキャピタルマーケット アジア太平洋責任者 マネージングディレクター ヘルグ・マンケル 氏</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ソーシャルボンドケーススタディ（COVID-19含む）及び市場展望 <p>ISSコーポレートソリューション VP サステナブルファイナンスビジネスマネージャー フェドリーコー・ペッツォラット 氏</p> <p>ISSコーポレートソリューション ESGコンサルタント ダマーソ・ザガーグリア 氏</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ソーシャルボンドのための外部評価 ・ ソーシャルボンドのセカンドパーティオピニオン（SPO）に関する外部評価者によるプレゼンテーション |

東大×日証協 「SDGsシンポジウム」の開催



2020年12月 東京大学との共催により「SDGsシンポジウム」を開催

| | |
|-------------|---|
| 日程 | 2020年12月15日（火）18時00分 ～ 20時00分 |
| タイトル | 東大×日本証券業協会 SDGsシンポジウム 知とビジネスのイノベーション ～未来の選択～ |
| テーマ | 今、注目を集めているSDGs。その達成のために一人ひとりができることは何か。今大学で学んでいる、またこれから学ぶであろう学問や研究を使って、世界で起こっている社会的課題の解決に貢献することができる。大学での経験・学問・研究等からベンチャーとして起業した事例を通じて、持続可能な社会のイノベーションについて考える機会とする。 |
| 共催 | 東京大学・日本証券業協会 |
| 参加者数 | 全国の大学生等、ZOOM及びニコニコ生放送で 合計5,400名（視聴数ベース） |



<テーマ>

今、注目を集めているSDGs。その達成のために一人ひとりができることは何か。あなたが、今大学で学んでいる、またこれから学ぶであろう学問や研究を使って、世界で起こっている社会的課題の解決に貢献することができます。

大学での経験・学問・研究等からベンチャーとして起業した事例を通じて、持続可能な社会のイノベーションについて考えます。

形式 オンライン開催

日付 12月1日(火)

時刻 (開始) 18:00

参加登録はこちら

(QRコード)



東大×日本証券業協会
SDGsシンポジウム

知とビジネスの
イノベーション
～未来の選択～

<プログラム>

- 1 (18:00) 主催者開会挨拶
藤井 輝夫 (東京大学 理事・副学長)
- 2 (18:10) 基調講演 1
「SDGs— 私たちが目指す未来」
沖 大幹 氏 (東京大学総長特別参事、国際連合大学上級学長)
- 3 (18:30) 基調講演 2
「途上国から医療イノベーションを目指す」
酒匂 真理 氏 (株式会社Hmiup 代表取締役)
- 4 (19:00) パネルトーク
「SDGs×ベンチャーという選択」
モデレーター
大槻 奈那 氏 (マネックス証券 執行役員、名古屋市立大学大学院 教授)
パネリスト
稲田 大輔 氏 (atama plus株式会社 代表取締役)
久保田 裕也 氏 (株式会社オトバンク 代表取締役社長)
清水 信哉 氏 (ニレファンテック株式会社 代表取締役社長)
谷家 衛 氏 (あすかホールディングス株式会社 取締役会長)
青山 洋祐 氏 (東京大学学生EMPOWER Director、オイスカグループJMS代表)
- 5 (20:00) 主催者閉会挨拶 (ビデオメッセージ)
鈴木 茂晴 (日本証券業協会 会長)

<主催>



2020年12月 東京大学との共催により「SDGsシンポジウム」を開催

東大×日本証券業協会
SDGsシンポジウム

知とビジネスの
イノベーション

～未来の選択～

2020年12月1日18:00～ 渋谷スクランブルスクエア
SCRAMBLE HALL × Online

主催者開会挨拶

世界の課題解決にどう貢献できるか それを考えるきっかけに

東京大学では、より良い未来社会を実現する目的でSDGsの17のゴールに基づいた200を超えるプロジェクトを推進しています。日本証券業協会も積極的にSDGsを推進しています。そこで双方が協力してこの事業に取り組みることになり、今回のシンポジウムもその一環として実施されたものです。世界の課題解決にどう貢献できるか。本日の講演が、それを考えるきっかけになれば幸いです。



藤井 輝夫
東京大学理事 副学長

基調講演①

SDGs— 私たちが目指す未来

沖 大幹氏

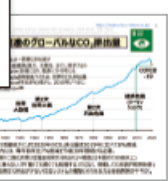
東京大学経済学特別准教授、国連大学上級研究員



SDGsを考えるうえで理解しておいていただきたいのが「2030アジェンダ」です。その中心に置かれているのがSDGsの17種類の持続可能な開発目標とそれに紐づく169のターゲットです。「2030アジェンダ」の理念は「我々の世界を変革する」ことです。

- ・持続可能な公平なより良い未来への変革
- ・持続可能な開発の三側面、すなわち経済・社会・環境を調和させる
- ・人権や懸念の尊重、地球環境の保全、繁栄の調和を目指す野心的な計画
- ・人権や懸念の懸念および欠乏の即時かつ徹底的に解決し、地球を豊かに安全にする

これらの変革を誰一人取り残さず、すべての人々の生活の大きな改善に資するこの「2030アジェンダ」を理解したうえで、企業であれば自社の発展に直結したターゲット、指標を作る。個人も企業も、これらの世界が解決すべき課題を設定し、それぞれが得意とする分野で主体的に関わる。さらに、SDGsのゴールには設定されていないが、急速な高齢化や若年層の経済・健康への対応、あるいは文化、スポーツ、エンターテインメント、芸術などの分野でも考慮すべき重要な課題があります。SDGsが掲げている環境保全、社会正義、経済発展はどれも重要ですが、どれもを犠牲にして他が成り立つのではなく、全てが同時に成り立つ社会の実現を目指すのがSDGsです。



基調講演②

途上国から 医療イノベーションを目指す

酒匂 真理氏

東京大学大学院修士、株式会社miup代表取締役



株式会社miupはSDGsゴール3の「すべての人に健康と福祉を」に対応した活動を主に途上国で展開しています。世界では途上国を中心に40億人の人々が医療にアクセスできていない現状があります。一方でこうした国々は近年急速にインフラが整ってきて、私たちが活動しているバングラデシュでもスマホはかなり普及しています。ですからインターネットなどのテクノロジーによる医療アクセスが可能になってきました。miupが目指すのは、量産で最適な方法で世界の隅々にまで医療を届けることです。具体的には、データを活用した3つの事業を展開し、ソーシャルインパクトと高収益サービスの両立を図っています。

●AI医療と低コスト健診
AIスクリーニング検診で遠隔地でも安く手軽に健診を受けられます。また医師による遠隔医療診断サポートでコストダウンを図ります。これらによって受信者のコストを50～70%削減し、すべての人が健診を受けられるようになります。

●高収益サービス
●老人訪問型健診と遠隔医療
中・高齢者を対象に医療スタッフが直接訪問検査を行い、自社臨床検査センターで分析。結果はスマホでチェック。医師による指導と薬の配達。

●臨床検査センター運営
クリニックを対象に自社臨床検査センターでの検査受託。検査センターの運営ノウハウを活かし新設病院でのラボを運営。この3つの事業によってソーシャルインパクトと収益性の両方を兼ね備えた持続可能な事業モデルを実現し、SDGsへの貢献を目指します。



パネルトーク SDGs×ベンチャーという選択

テーマ

- ・ビジネスを通じて社会的解決に取り組む意義
- ・SDGs達成のために私たち一人ひとりができることは何か
- ・事業継続をする上での資金調達（お金の流れ）の重要性



オンライン視聴者からの質問に答える

ソーシャルグッドを目指すことにより、

かえってマネタイズが難しくなるといった課題感はあるか。

【清水】ソーシャルグッドを目指すからマネタイズが難しくなるということはあまり感じない。寧ろ、ソーシャルグッドを目指すからこそ、人材採用と資金調達には苦労しないというメリットがある。

【久保田】ソーシャルグッドがビジネスとして成立しないのであれば、成立させるためにどうすべきかを判断するだけのことである。むしろソーシャルグッドがビジネスとして成長していく場合、人々のさらなる幸せをいかに実現するか、より大きな社会貢献に向けた新たな課題に対応することが先決。マネタイズは事業の内容に関わらず生じる課題だ。

【稲田】ソーシャルグッドとマネタイズはよく対立関係として扱われるが、僕はむしろ事業の荷輪だと思っている。本質が社会課題を解決できれば大きなリターンは付随するはずだし、社会課題を解決せずに大きなリターンがついてくことはない。

【谷家】逆に考えれば、外部不経済（社会への悪影響）を起こすことで収益をあげている事業が存在したとしても、外部不経済は可成り形で内部化されていくため、中長期的にはその収益性は上手い手いかなくなる。今、世界が抱えている大きな課題は、資本主義が溢みすぎたことによって生じた分断である。その分断を解決することこそが、長い目で見た成長機会があるのだと思う。

モデレーターからの質問に答える

このシンポジウムを通じてベンチャー企業のイメージがどう変わったか。

【青山】お話を聞いていて今まで持っていたベンチャー企業のイメージが変わった。持続可能な事業を考えた場合、短期的なニーズを埋めるだけでなく、それぞれの得意を活かし、制度設計にまで深く入っていく姿勢に感服した。皆さんには、誰もが突進できる社会を築きたいという思いがあることを理解できた。

主催者開会挨拶 (ビデオメッセージ)

知識と飽くなき探究心がより良い未来につながる

持続可能な未来を目指すSDGsの達成には、ビジネスという観点からもアプローチが可能であることが分かっていただけではないでしょうか。証券業界としても、我々が事業とする必要資金の迅速かつ円滑な供給機能などを通じて、SDGs達成に向けて全力で取り組んでまいります。知識はもちろん、飽くなき探究心がより良い未来につながるというこを願っていたら幸いです。



鈴木 茂晴 日証協副会長

モデレーター

大槻 奈那氏

マネックス証券 執行役員、
名古屋商科大学 教授



パネルスト

稲田 大輔氏

atama plus株式会社 代表取締役



2006年 東京大学大学院 情報理工学系 研究科修了。三井物産でベネッセデジタル教育投資等を歴任。2017年 atama plus株式会社を創業。AIを活用し、中高生一人ひとりにカスタマイズした学びを提供。全国の大学卒業の3割以上で導入。

久保田 裕也氏

株式会社オトバンク 代表取締役社長



東京大学経済学部経済学専攻。株式会社オトバンクには2004年の立ち上げ当初から参画。書籍を音声にして聴き取る国際大規模のオーディオブック配信サービス(audio-book.jp)を運営。音声コンテンツの制作、販売、サービス運営まで手がける。

清水 信成氏

エルフエンテック株式会社 代表取締役社長



東京大学大学院 情報理工学系 研究科修了。2014年1月 エルフエンテック株式会社共同創業者、代表取締役社長就任。インクジェット印刷による電子回路製造技術が世界で初めて量産化。既存の製造技術に比べ水消費量やエネルギー消費量が1/10以下になる。

谷家 衛氏

ホリスホールディングス株式会社 取締役会長



東京大学法学部卒業。スタートアップの創業支援やNGO/PROへの参画を業界的に実施。オプティン生命保険(フィナンシャル生命)の立ち上げや、ヒューマン・ライフ・ウォークの東京委員会 Vice Chair Personshipを務める。

青山 洋祐氏

東京大学文系一環2年在学



EMPOWER Project、ボイス・オブ・ユースJAPANに所属。企業、行政、団体など多岐に「社会を動かす」活動の普及や、若者の声を届かせるプラットフォームを作り、若者自身に思いを具現し、交差できる場を提供している。

東京大学×日本証券業協会 「大学債／ソーシャルボンド・カンファレンス」の開催



2021年1月 東京大学との共催により「大学債／ソーシャルボンド・カンファレンス」を開催

| | |
|-------------|---|
| 日程 | 2021年1月15日（金）10時30分 ～ 12時00分 |
| タイトル | 東京大学×日本証券業協会 大学債／ソーシャルボンド カンファレンス ～初の大学債、発行の意義とSDGsへの貢献～ |
| 趣旨 | 東京大学が昨年10月上旬、東京大学FSI債をソーシャルボンドとして200億円発行。複数の新聞・メディア等で報道され、現在多くの反響を呼んでいる。また、本年のソーシャルボンド国内公募発行額は8,000億円を超え、既に昨年発行額を上回るなど、本国ソーシャルボンド市場は広がりを見せつつある。そこで、東京大学と日本証券業協会の共催により、大学債（東京大学FSI債）の社会的意義、大学の資金調達手段としての債券の役割、大学債のソーシャル性・SDGsへの整合性、ソーシャルボンドの現状と課題等といった内容をテーマにしたカンファレンスをオンライン開催 |
| 共催 | 東京大学・日本証券業協会 |
| 参加者数 | 全国の大学関係者（国公私立大学 財務部長、社会連携担当）、学生、証券関係者等 280名（参加申込300名） |

東京大学 × 日本証券業協会

大学債／ソーシャルボンドカンファレンス

初の大学債 発行の意義と SDGsへの貢献

東京大学が2020年10月、東京大学FSI債をソーシャルボンドとして200億円発行しました。2020年のソーシャルボンド国内公募発行額は、8,000億円を超え、2019年発行額を大きく上回るなど、本国ソーシャルボンド市場は広がりを見せつつあります。
そこで今回、東京大学と日本証券業協会の共催により、大学債（東京大学FSI債）の社会的意義、大学の資金調達手段としての債券の役割、大学債のソーシャル性・SDGsへの整合性、ソーシャルボンドの現状と課題等といった内容をテーマにしたカンファレンスを開催します。

<プログラム>

10:30 歓迎・開会挨拶



東京大学 総長
五神 真

10:30 歓迎・開会挨拶



日本証券業協会 会長
鈴木 茂晴

10:40 基調講演・講演



東京大学 FSI債発行の意義と発行への道のり
東京大学 副学長
坂田 一郎

10:40 基調講演・講演



SDGs債 特にソーシャルボンドの意義
日本証券業協会 副会長・専務理事
岳野 万里夫

11:00 パネルディスカッション

大学債発行の実際、 市場の反応、今後の課題

モデレーター
日本証券業協会 特別顧問 **川村 雄介**

パネリスト

- ・東京大学 副理事（財務制度改革、資金・資産運用） **平野 浩之氏**
- ・株式会社日本格付研究所 サステナブル・ファイナンス評価部長
チーフ・サステナブルファイナンス・アナリスト **梶原 教子氏**
- ・文部科学省 高等教育局 総学官（命） 高等教育局 大学改革官 **生田 知子氏**
- ・大和証券株式会社 デット・キャピタルマーケット部
オリジネーション課 **米上 広成氏**

30min ディスカッション 30min 質疑応答

日付 **2021年1月15日** (金)

時刻 **10:30 ▶ 12:00**

方式 **オンライン**
<https://webform.adm.u-tokyo.ac.jp/Forms/1605684760/>

主催 **東京大学** **FSI** **日本証券業協会**

参加登録はこちら



※予告なく記載内容は変更される場合があります。
※新型コロナウイルス感染症の流行状況を鑑み、オンラインのみの開催といたします。

56

東京大学×日本証券業協会 「大学債／ソーシャルボンド・カンファレンス」の開催



2021年1月 東京大学との共催により「大学債／ソーシャルボンド・カンファレンス」を開催

プログラム

| | |
|-----|---|
| 10分 | 歓迎・開会挨拶 東京大学 総長 五神 真氏 日本証券業協会 会長 鈴木 茂晴 |
| 10分 | 基調講演：東京大学FSI債（東大債）発行の意義 東京大学 副学長 坂田 一郎氏 |
| 10分 | 講演：SDGs債 特にソーシャルボンドの意義 日本証券業協会 副会長・専務理事 SDGs推進本部 副本部長 岳野 万里夫 |
| 30分 | パネルディスカッション： 大学債発行の実際、市場の反応、今後の課題 モデレーター： 日本証券業協会 特別顧問 川村 雄介 パネリスト： 東京大学 副理事 (財務制度改革、資金・資産運用) 平野 浩之氏 (株)日本格付研究所 サステナブル・ファイナンス評価部長 チーフ・サステナブルファイナンス・アナリスト 梶原 敦子氏 文部科学省 国立大学法人法 改正等担当者 大和証券(株) デット・キャピタルマーケット部 オリジネーション課 米上 広成氏 |
| 30分 | 質疑応答 モデレーター、パネリストに対する質疑応答 |

講演「SDGs債 特にソーシャルボンドの意義」資料

統一呼称「SDGs債」の提言

SDGs債とは、「調達資金がSDGsに貢献する事項を含む」

具体的には、次のような債券を含む

- ✓ SDGsに貢献する環境・社会へのポジティブなインパクトを一般的にスタンダードとして認められている原則に（例として、国際資本市場協会（ICMA）による「グリーンボンド原則」、ソーシャルボンド原則（例として、国際資本市場協会（ICMA）による「グリーンボンド原則」及び「ソーシャルボンド原則」）及び社会（ソーシャル）及び社会（ソーシャル）及び社会（ソーシャル）
- ✓ 事業全体がSDGsに貢献すると考えられる機関がインパクト（改善効果）に関する情報開示が適切（例として、APF開発銀行、国際労働機関（ILO）、欧州開発銀行、世界開発銀行、世界銀行）

※ICMA (International Capital Market Association) は、スウェーデン本部に国際資本市場協会（ICMA）の本部があり、グリーンボンド原則、ソーシャルボンド原則、社会（ソーシャル）ボンド原則の制定・改訂、発行ガイドラインの策定、市場の成長の促進に努めています。

※日経証券は、ICMAによる「グリーンボンド原則」の改訂に先導的に対応し、ソーシャルボンド原則の改訂にも先導的に対応しています。

ソーシャルボンドとしての東京大学FSI債

ソーシャルボンド プロジェクト分類（資金使途）及び SDGs目標・ターゲット貢献性

プロジェクト分類（資金使途）

| プロジェクト分類 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 13 | 14 | 15 | 16 | 17 |
|------------------------|---|---|---|---|---|---|---|---|---|----|----|----|----|----|----|----|----|
| 1. 手ごころな価格の基本的インフラ設備 | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● |
| 2. 必要不可欠なサービスへのアクセス | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● |
| 3. 手ごころな価格の住宅 | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● |
| 4. 中小企業向け資金供給及び雇用創出 | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● |
| 5. 食糧の安全保障と持続可能な食糧システム | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● |
| 6. 社会経済的向上とエンパワーメント | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● |

（出典：ICMA「持続可能な開発目標（SDGs）に貢献するグリーンボンド原則」
（出典：株式会社日本格付研究所「東京大学ソーシャルボンド・フェーズ1」）

SDGsに貢献する証券市場を目指して

証券業界は統一呼称を提言

SRI債
ESG債
社会貢献債

ソーシャルボンドとは

債券のうち、調達資金の全てが、新規又は既存の適切なソーシャルプロジェクトの一部又は全部の初期投資又はリアイザンスのために充てられ、かつ、ICMA「ソーシャルボンド」原則においては、4つの原則に適合している、特別な債券である。

ICMA原則 ソーシャルプロジェクト例

1. 手ごころな価格の基本的インフラ設備（例：交通、水道、下水処理、廃棄物処理、エネルギー）
2. 必要不可欠なサービスへのアクセス（例：教育、医療、高齢者福祉、国際貿易、資金供給と金融サービス）
3. 手ごころな価格の住宅
4. 中小企業向け資金供給及びマイクロファイナンスによる脆弱な経済を支援し、社会経済的発展に貢献する失業の削減と雇用創出
5. 食糧の安全保障と持続可能な食糧システム（例：食糧生産を支援し、食糧・栄養の脆弱な状況の脆弱性、社会的、経済的脆弱性、回復力のある食糧生産、フードシステムと食糧の供給、食糧生産と食糧供給）
6. 社会経済的向上とエンパワーメント（例：教育、サービス、トレーニング及び労働力の公平なアクセスとトレーニング、労働者の権利を支援し、市場における公平な競争を促進）

ICMA原則 4つの柱となる要素

1. 調達資金の使途
調達資金は、社会の恩恵を有するプロジェクトに充てられる。発行体は法定書类等で明示する。
2. プロジェクトの評価と適度のプロセス
発行体は、自衛手段の目的で、適度のプロセスの適度なプロセス、適切なクオリティについて投資家に伝える。
3. 調達資金の管理
発行体は調達資金を適切に管理、追跡する。プロジェクトの進捗と資金使途状況とを調整する。
4. レポートリング
プロジェクトの進捗、恩恵、資金使途状況、期待される結果を含む定期的な情報に基いて、レポートを作成・保存する。

上記4つの柱の意見に加え、（外部評価）を行うことが望ましいとされている。（ICMA「グリーンボンド原則」）

5. 国際的な連携・協力

アジア証券人フォーラム（ASF） SDGsに関するバリ宣言

- ・アジア証券人フォーラム（ASF）は、1995年にアジア・大洋州地域における証券界の意見及び情報交換、証券市場の発展と経済成長への寄与を目的として本協会の提唱により設立され、現在、同地域における証券自主規制団体及び業界団体の26機関が参加している。
- ・2018年11月、本協会の提唱に基づき、**ASFとしてSDGsの達成に貢献する意思を明示することを主眼に、ASFメンバーの賛同を得て「SDGsに関するバリ宣言」を採択した。**
- ・採択セレモニーでは鈴木会長がスピーチを行い、総会に参加した全メンバーが登壇、賛同意思を表明した。

SDGsに関するバリ宣言

2018年11月2日採択 於バリ インドネシア（仮訳）

アジア太平洋地域は、世界人口の半数以上を占め、高い経済成長を達成又は維持し、世界経済を牽引する役割を担っている。同地域はまた、世界の最貧困人口の半数以上を占め、急速な産業化と社会構造の変化により、社会及び環境における困難に直面している。アジア太平洋地域における社会、経済、及び環境問題に対処することは、結果として同地域のみならず世界全体の持続可能な開発に寄与するものである。

証券業界は国際連合が示す持続可能な開発目標の達成のために必要な資金を効率的に配分する上で大きな役割を果たすことが期待されている。これらの状況に鑑み、

我々アジア証券人フォーラムのメンバーは、アジア太平洋地域の証券業界間で意見及び情報を交換し、同地域の証券市場の発展と経済成長に資するという設立の目的を想起し、

世界で最も急速に成長を遂げている地域の証券市場を擁し、相当の地理的範囲と人口を占めるメンバー機関の拡大を反映し、この地域の証券業界が国際連合の持続可能な開発目標（SDGs）の達成のために重要な役割を果たすことができることを認識し、ここに、以下の事項に取り組むことを宣言する。

関係規制当局及び他のステークホルダーと協力し、前述の目標の達成に貢献できる金融・証券市場の発展と維持を促進し、グリーン及びソーシャルボンド原則やサステナビリティボンド・ガイドラインのように、グローバルな資本市場で広範に実践される、SDGsに貢献するイニシアチブを歓迎・支持し、メンバー間における協力を促進し、この分野において我々が情報、知見、経験を共有できるプラットフォームとしての機能を強化する。

アジア証券人フォーラム（ASF） SDGsサーベイ 概要

2020年、ASFメンバー機関 各機関のメンバーにおけるSDGsに係る取組みについてのサーベイを実施。サーベイの結果、ASFメンバー25機関のうち、**17機関がSDGsに係る取組みを実施**していることが分かった。

サーベイ報告書 表紙



事例紹介例



2020年度のサーベイの目的

ASFメンバー各機関等におけるSDGsに係る取組みを紹介し合い、グッドプラクティスを共有し、各機関のSDGsに係る今後の取組みに役立て、ASFとしてSDGsを推進していく。

アジア証券人フォーラム（ASF） SDGsサーベイ 概要（続き）

2020年、ASFメンバー機関 各機関のメンバーにおけるSDGsに係る取組みについてのサーベイを実施。サーベイの結果、ASFメンバー25機関のうち、**17機関がSDGsに係る取組みを実施**していることが分かった。

サーベイの結果の概要（1）

概要



ASFメンバーの25機関のうち、

17 機関がSDGsに
係る取組みを実施

(回答ベース。約68%)

ASIFMA, ICMA, AFMA, CTSA, BBF, APEI, JSDA, KOFIA,
ASCM, MASD, NZFMA, NFA, SAS, ASCO, ThaiBMA, TCMA,
及びVASBから回答があった

地域別



ASFメンバーの20国・法域のうち、

15 の国・法域において
取組みを実施



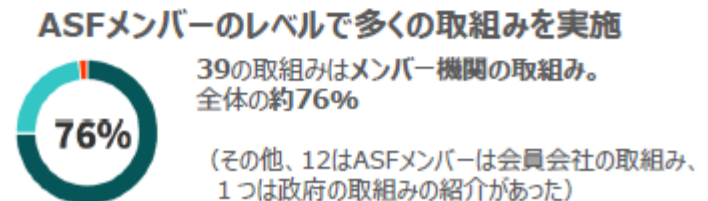
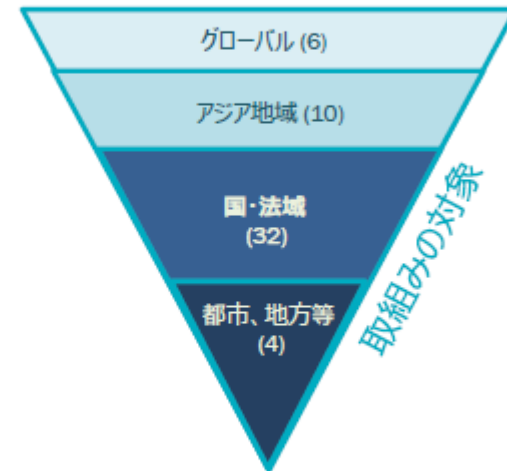
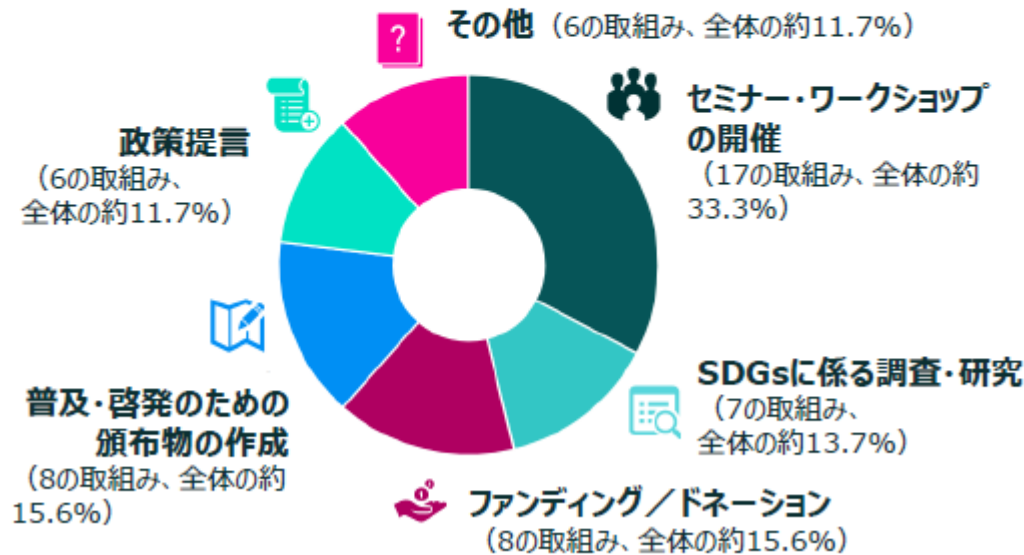
アジア証券人フォーラム（ASF） SDGsサーベイ 概要（続き）

2020年、ASFメンバー機関 各機関のメンバーにおけるSDGsに係る取組みについてのサーベイを実施。サーベイの結果、ASFメンバー25機関のうち、**17機関がSDGsに係る取組みを実施**していることが分かった。

サーベイの結果の概要（2）

取組みの内訳

サーベイに回答のあったSDGsに係る取組み内訳は以下のとおり。



ASFメンバー（日証協除く）によるサステナブルファイナンス関連取り組み一覧

日証協を除くASFメンバーの40の回答の内、**28がサステナブルファイナンスに係る取組**であった（略称は次頁参照）

| | 取り組み（仮訳） | 機関（略称） | | 取り組み（仮訳） | 機関（略称） |
|----|--|----------|----|---|----------|
| 1 | 国際責任投資家ネットワーク（IRIN）2020 | BBF | 15 | サステナブルなファイナンスに焦点を当てたSRONFAウェブサイトセクション | SRO NFA |
| 2 | サステナブルファイナンスセミナー | APEI | 16 | GBP、SBP、SBG等の原則のタイ語への翻訳 | THAI BMA |
| 3 | 社会的責任投資：サステナブルな成長への道セミナー | KOFIA | 17 | ブルサイスタンブールサステナビリティプラットフォーム | TCMA |
| 4 | ノルウェーと／オランダ年金基金訪問（韓国資産運用会社CEO同行）、ESG投資に関する対談 | KOFIA | 18 | 政府グリーンニューディールイニシアチブ支援 | KOFIA |
| 5 | サステナブルファイナンスのウェビナー／会議 | SRO NFA | 19 | サステナブルファイナンスWG設置 | ASIFMA |
| 6 | サステナビリティの議論 | SAS | 20 | サステナブルファイナンスのためのハイレベルの定義を発表 | ICMAアジア |
| 7 | 2020年1月：サステナビリティボンドフォーラム | THAI BMA | 21 | サステナビリティ・リンク・ボンドの原則発表 | ICMAアジア |
| 8 | サステナブルな開発のためのビジネス評議会 | TCMA | 22 | SDGマッピング／ハーモナイズドフレームワーク更新 | ICMAアジア |
| 9 | サステナブルな目標のためのビジネス | TCMA | 23 | COVID19に対処する際のソーシャルボンドに関するガイダンス提供 | ICMAアジア |
| 10 | ESGとサステナブルなファイナンスに関するウェビナー | ASIFMA | 24 | サステナブルな価値の創造 | AFMA |
| 11 | オーストラリア責任投資協会 | AFMA | 25 | オーストラリアサステナブルファイナンスイニシアチブ | AFMA |
| 12 | ロシアサステナブルファイナンスレポート | SRO NFA | 26 | コーポレート部門によるグリーン、ソーシャル、サステナビリティボンドの発行の促進 | THAI BMA |
| 13 | 「持続可能なデータアライアンスアジアストリームの未来」創設パートナー | ASIFMA | 27 | ESG債券インデックス（2021年開始予定） | THAI BMA |
| 14 | サステナブルなファイナンスのための国際政策イニシアチブとベストマーケットプラクティスの概要を公開 | ICMAアジア | 28 | 協会サイトのESG債券情報（2021年開始予定） | THAI BMA |

(参考) ASF概要、メンバー機関 (26機関)


アジア証券人フォーラム (ASF : Asia Securities Forum) は、1995年、アジア・オセアニア地域における証券界の意見及び情報交換、証券市場の発展と経済成長への寄与を目的に本協会の提唱により設立された。本協会が常設事務局を務めており、現時点でアジア・オセアニア地域における自主規制機関及び業界団体の26団体が加盟している。

・ASFは、毎年、加盟団体の持ち回りの主催により年次総会 (3日間) を開催している。2020年は、コロナ禍により実開催が難しいことから、オンラインによる開催とした。

| メンバー機関 | アジア | アジヤ証券業金融市場協会 (ASIFMA)、 国際資本市場協会 (ICMA) アジア太平洋地域事務所 |
|--------|----------|---|
| | 豪州 | 豪州金融市場協会 (AFMA)、 証券・金融助言業協会 (SAFAA) |
| | 中国 | 中国証券業協会 (SAC) |
| | 台湾 | 台湾証券業協会 (CTSA) |
| | 香港 | 香港証券業協会 (HKSA) |
| | インド | インド証券取引所参加者協会 (ANMI)、 ボンベイ証券取引所参加者協会 (BBF) |
| | インドネシア | インドネシア証券業協会 (APEI) |
| | 日本 | 日本証券業協会 (JSDA) |
| | 韓国 | 韓国金融投資協会 (KOFIA) |
| | マレーシア | マレーシア証券業協会 (ASCM) |
| | モンゴル | モンゴル証券業協会 (MASD) |
| | ニュージーランド | ニュージーランド金融市場協会 (NZFMA) |
| | ロシア | ロシア全国金融協会 (NFA) |
| | フィリピン | フィリピン証券業協会 (PASBDI) |
| | タイ | タイ証券業協会 (ASCO)、 タイ債券市場協会 (ThaiBMA) |
| | スリランカ | コロンボ証券仲介者協会 (CSBA) |
| | トルコ | トルコ資本市場協会 (TCMA) |
| | ベトナム | ベトナム証券業協会 (VASB)、 ベトナム債券市場協会 (VBMA) |
| | イラン | イラン証券取引仲介者協会 (SEBA)、 イラン機関投資家協会 (IIIA) (新規加入) |
| | シンガポール | シンガポール証券業協会 (SAS) |

本協会協賛 ロンドン「FT ESGコンファレンス」開催

2019年3月、ロンドンにて本協会・JPX協賛により
「FT ESGコンファレンス」を開催

| | | |
|--|--|--|
| 1) 開催期日 | 2019年3月5日(火) | |
| 2) 会議名 | ESGの統合:日本、アジア、欧州の発行体と投資家にリターンを解き放つ | |
| 3) 会場 | 英国ロンドン ロンドン証券取引所 | |
| 4) 主催機関 | フィナンシャル・タイムズ | |
| 5) 協賛等 | 日本証券業協会、日本取引所グループ、日本経済新聞社 | |
| 6) 参加者 | 約150名 | |
| 7) ポイント | 6) 当日の様様 | |
| <ul style="list-style-type: none"> ■ 日本証券サミットの翌日、ロンドン証券取引所(LSE)において、フィナンシャル・タイムズの主催(日経新聞はメディア・パートナー)、本協会・日本取引所グループの協賛により、ESG投資に関するコンファレンスを開催した。 ■ 司会のジリアン・テット氏、LSEのラティCEO、日証協の鈴木会長、東証の宮原社長によるスピーチ/基調講演に続き、ESGの様々な側面について4つのセッションが行われ、日本/英国/欧州及びグローバルな専門家が先進的取組みを紹介したほか、日本におけるESG投資の現状と今後の可能性について議論が行われた。 ■ 日本及び英国の投資家・金融機関・専門家を中心に、定員を上回る約150名が参加した。 |  | |

本協会協賛 ロンドン「FT ESGコンファレンス」開催



「FT ESGコンファレンス」プログラム

| | | |
|-----------------|---|---|
| 14:00 | イントロダクション | フィナンシャル・タイムズ 米国編集委員 ジリアン・テット 氏 |
| 14:05 | 開会挨拶 | ロンドン証券取引所 CEO ニヒル・ラヒ 氏 |
| 14:10 | 歓迎挨拶 | 日本証券業協会 会長 鈴木 茂晴 |
| 14:15 | 基調講演 | 東京証券取引所 代表取締役社長 宮原 幸一郎 氏 |
| 14:30- 15:10 | パネルディスカッション 「ESG インテグレーション の標準設定」 | <p>パネリスト:</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ アバディーン スタンダード インベストメンツ ESG投資部長 デボラ・ギルシャン 氏 ・ ブルーネル年金パートナーシップ(英地方政府年金基金)会長兼CEO デニス・レ・ガル 氏 ・ 責任投資原則(PRI) CEO フィオナ・レイノルズ 氏 ・ マーティン・キュリー インベストメントマネジメント スチュワードシップ・ESGヘッド デイビッド・シースピー 氏 <p>モデレーター: フィナンシャル・タイムズ アセットマネジメントコレスポンデント オーウェン・ウォーカー 氏</p> |
| 15:10- 15:50 | パネルディスカッション 「企業ビュー:価値創造の 重要な推進役としての ESG」 | <p>パネリスト:</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ロンドン証券取引所グループ FTSE Russell サステナブル投資ヘッド サステナブルビジネス グループヘッド デイビッド・ハリス 氏 ・ HSBC 戦略グループヘッド サステナブル ファイナンス グローバルヘッド ダニエル・クリア 氏 ・ 金融庁 総合政策局総務課 国際証券規制調整官 兼 企画市場局企業開示課 国際会計調整室長 園田 周 氏 ・ 国際銀行協会 事務局長 ギャリー・スタントン 氏 ・ 大和証券 専務取締役 世界経済フォーラム グローバル・フューチャー・カOUNシル 金融・通貨システム部会メンバー 田代 桂子 氏 <p>モデレーター: フィナンシャル・タイムズ アセットマネジメントコレスポンデント オーウェン・ウォーカー 氏</p> |
| 16:10- 16:50 | パネルディスカッション 「日本のESG と社会的責 任投資の新時代」 | <p>パネリスト:</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 日本取引所 サステナビリティ推進本部 事務局長 荒井 啓祐 氏 ・ 日本サステナブル投資フォーラム 会長(国連責任投資原則(PRI) 持続可能な金融システム諮問グループ・メンバー) 荒井 勝 氏 ・ 楽天 グローバルデベロップメント&サステナビリティ EVP マーク・アピランド 氏 ・ 三菱 UFJ アセット マネジメント(UK) 加藤 正裕 氏 <p>モデレーター: フィナンシャル・タイムズ 米国編集委員 ジリアン・テット 氏</p> |
| 16:50 | 閉会ダイアローグ 「責任あるリターン」 | <p>パネリスト:</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ アジア開発銀行研究所 エコノミスト/GPIF 経営委員 根本 直子 氏 ・ フィナンシャル・タイムズ 米国編集委員 ジリアン・テット 氏 |

本協会協賛 ロンドン「FT ESGコンファレンス」開催

「FT ESGコンファレンス」の様様



6. 金融・証券教育支援事業における取組み

金融経済教育における取組み 学校向け教材提供 関連

学校向けの教材において、SDGsの普及・啓発に向けた施策を実施

「金融クエスト」

主に中学、高校生を対象に、社会的課題を解決する起業体験を通じて、企業の意義と役割、事業を行うための資金調達、投資の意義やSDGs等を学ぶ教材「**金融クエスト**」を新たに制作（2021年4月公開）



「株式会社制度と証券市場の仕組み」



主に高校・大学生を対象した「**株式会社制度と証券市場の仕組み**」において、株式会社制度や証券市場の意義として、投資家による社会に貢献している企業への投資行動が「SDGsの実現につながる、持続可能な社会の形成への参画となる」ことを訴求。

金融経済教育における取組み 講師派遣、セミナー 関連

大学向けの講師派遣、社会人向けのセミナーにおいて、SDGsやサステナブルファイナンスの普及・啓発に向けた施策を実施

大学向け講師派遣

大学生を対象とした講師派遣事業において、「社会的責任投資（SRI）」といった投資の社会的意義や、証券会社のサステナブルファイナンスにおける仲介機能、SDGsに貢献する金融商品として、グリーンボンドやソーシャルボンド等を含む「SDGs債」について説明

【大学生向け講師派遣レジュメ】

8. 投資の社会的意義
SDGsに貢献する金融商品

SDGsに貢献する金融商品は、1920年代からSRI、ESG投資、インパクト投資等と変遷をたどりながら発展し続けている

| 金融商品等 | 概要 |
|-------------|--|
| SRI | Socially Responsible Investmentの略で、「社会的責任投資」と訳される。投資をする際に、企業としての社会的・倫理的側面なども考慮して投資先を選ぶこと |
| ESG投資 | 投資判断にESG要素（環境（Environment）、社会（Social）、企業統治（Governance））を組み込むことで、適切にリスクを管理し、持続的・長期的なリターンを獲得を目指す手法 |
| グリーンボンド | 企業や国際機関等が、地球温暖化をはじめとする環境問題の解決に資するグリーンプロジェクトに要する資金を調達するために発行する債券 |
| ソーシャルボンド | 企業や国際機関等が、衛生・福祉・教育などの社会課題の解決に資するソーシャルプロジェクトに要する資金を調達するために発行する債券 |
| サステナビリティボンド | グリーンおよびソーシャル双方のプロジェクトに要する資金を調達するために発行する債券 |

SDGs債
※ 調達資金がSDGsに貢献する事業に充当される債券

グリーンボンド ソーシャルボンド サステナビリティボンド など

一般的なSDGs債の信用力は、その発行体が発行する他の通常の債券と同様
通常の債券と異なる点は、環境・社会課題解決のための資金使途が特定されていること

ご取組む発行体の資金ニーズと
債権者のニーズをつなげることで

SDGsに貢献するプロジェクト

債券の組成等
債券など
投資
投資家へ販売・説明
投資を通じてSDGsに貢献！
投資家への販売を通じてSDGsに貢献！
環境・社会的課題に取組む人々・団体を支援！

社会人向けセミナー

投資初心者・未経験者を対象に金融・証券の基礎知識の理解を深めてもらうことを目的としたセミナーにおいて、投資の社会的意義やSDGsについて説明

【社会人向けセミナーレジュメ】

投資の意義

資産運用には、お金をふやす目的のほか、「経済成長を支える」という意義があります。

暮らしやすさの向上
公共事業など

ご家庭
保有資産をふやすことが期待できる。

証券市場
国債購入
株式投資 など

政府
国や企業の競争力の強化。
事業の拡大により、持続的な経済成長が望まれる。

会社
企業
設備投資など

商品やサービスの向上

無断複製・転載を認めます。 © Japan Securities Dealers Association All Rights Reserved. 35

働き方改革
地域・地方の創生 等

WEBサイト、冊子において、SDGsの普及・啓発に向けた施策を実施

WEBサイト「投資の時間」による訴求

投資初心者・未経験者を対象としたWEBサイト「投資の時間」において、投資の社会的意義やSDGsについて説明



SDGs (持続可能な開発目標) (えすでいーじーず (じそくかのうなかいとはつむくひょう))

意味
*誰一人取り残さない「世界の未来に向けて、国連が定めた17の目標と169のターゲットからなる国際目標。

解説
国連は「持続可能な開発のための2030アジェンダ」を採択し、先進国を含む国際社会全体の持続可能な開発目標 (SDGs:Sustainable Development Goals) として、2030年を期限とする17の目標と169のターゲットを定め、あらゆる形態の貧困に終止符を打ち、不平等と闘い、気候変動に対処するための取組みを進めています。
金融商品の中には、SDGsの達成に向けて取り組む企業・団体等に資金を供給し、その活動を後押しするものがあります。このように証券投資によってSDGsに貢献する方法もあります。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS
国連持続可能な開発目標の概要

証券投資との関係
・SDGs債 (グリーンボンド、ソーシャルボンドなど) をはじめとするインパクト・投資
・環境・社会・企業統治を重視するESG投資など

画像「国連広報センター HPより」

社会人向け冊子「資産運用と証券投資 スタートブック」による訴求

投資初心者・未経験者を対象にした冊子「資産運用と証券投資 スタートブック」において、投資の社会的意義や、SDGsとインパクトインベストメントの関係について説明



Asset Management and Securities Investment

サクサクわかる!

資産運用と証券投資

Column
SDGs(エスディーゼーず)=持続可能な開発目標

国連は「持続可能な開発のための2030アジェンダ」を採択し、先進国を含む国際社会全体の持続可能な開発目標 (SDGs) として、2030年を期限とする17の目標と169のターゲットを定め、あらゆる形態の貧困に終止符を打ち、不平等と闘い、気候変動に対処するための取組みを進めています。金融商品の中には、SDGsの達成に向けて取り組む団体等に資金を供給し、その活動を後押しするものがあります。このように証券投資によってSDGsに貢献する方法もあります。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

証券投資との関係
インパクト・インベストメント (グリーンボンド、ソーシャルボンドなど) や、環境・社会・企業統治を重視するESG投資など

Copyright©2020 日本証券業協会

高等学校の選択科目「政治・経済」の新学習指導要領においては、例えば、「環境に関する条約などによる法的規制」、「環境税や排出量取引など経済的手法による制度設計」、「政府や国際機関、企業、非政府組織（NGO）、個人などが環境保全に果たす役割」などについて、SDGsに触れながら、探求できるようにすることが大切である旨、盛り込まれている。

（２）グローバル化する国際社会の諸課題の探究

地球環境と資源・エネルギー問題については、地球環境問題が具体的には、地球規模の気候変動や生物多様性の危機、オゾン層の破壊、熱帯林の減少など様々な問題として現れており、これらの問題が …（中略）… 地球規模にまで広がっている現状がある。…（中略）…。

このような現状を踏まえて、地球環境の保全を優先する考え方と、生活水準の向上を目指す経済発展（開発）を優先する考え方とを対照させ、持続可能な開発という観点から探究できるようにする。

その際、例えば、…（中略）… 環境に関する条約などによる法的規制、環境税や排出量取引など経済的手法による制度設計、国際会議や国際協定などにおける環境外交や国際的な協力や取組、政府や国際機関、企業、非政府組織（NGO）、個人などが環境保全に果たす役割などについて、「誰一人取り残さない」との理念の下、自然環境や資源の有限性、貧困、イノベーションなどに関わる17のゴール（目標）、169のターゲットからなる国際連合における持続可能な開発目標（Sustainable Development Goals。以下、SDGsと略す。）に触れながら、自分の考えを説明、論述できるようにすることが考えられる。その際、人間尊重と人類の福祉の増大の立場に立って探究できるようにすることが大切である。

2021年1月30日実施の大学入学共通テスト「現代社会」において、SDGsとそのロゴに関する問題が出題

現代社会

問 7 下線部①に関して、次の文章中の **カ** ~ **ケ** には、SDGs(持続可能な開発目標)のうち特に関連する5つの目標のいずれかが入り、下の図はそれらをロゴによって示している。**カ** および **ケ** に入るSDGsのロゴの番号の組合せとして最も適当なものを、下の①~⑧のうちから一つ選べ。

27

WFPは、学校給食の提供を行ってきた。子どもが給食以外に十分な食事をとれないこともしばしばあり、**カ** を目指すプログラムだが、無償の食事は、両親が子どもを通学させる動機になることから、**キ** にもつながっていく。特に女子教育には、様々な効果があるとされる。まず、女子が早くに結婚させられてしまうことが減って、幅広い進路選択が可能になり、**ク** に資する。さらに、一定の教育を受けた女性が養育する子どもは栄養状態が良く、乳幼児期の死亡率が低くなるとされ、**ケ** にも影響を与えている。男女とも、修学すると高収入の職に就く可能性が高まることから、貧困解消にも寄与する。

UNICEFは、地域の女性たちによる共同菜園を奨励するプログラムを実施してきた。これは、干ばつに苦しむ地域での食料確保という意味で**カ** に関わる。また、摂取カロリーの不足分を賄うだけでなく、多品種の野菜や果物によって栄養バランスを整え、**ケ** にもつながる。収穫物を販売すれば、貧困の解消にも寄与する。菜園の運営をきっかけに、女性が地域社会においてさらに積極的な役割を果たす仕組みが定着すれば、**ク** にも資するだろう。

図 SDGsのロゴ(一部抜粋)



- ① **カ**-2 **ケ**-3
- ② **カ**-2 **ケ**-15
- ③ **カ**-3 **ケ**-2
- ④ **カ**-3 **ケ**-4
- ⑤ **カ**-4 **ケ**-5
- ⑥ **カ**-5 **ケ**-2
- ⑦ **カ**-15 **ケ**-3
- ⑧ **カ**-15 **ケ**-4